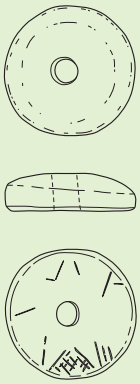
岡山県古代吉備文化財センター

Okayama Prefectural Ancient Kibi Cultural Properties Center

年　報　1

Annual report 1

＜ 令和３年度 ＞



２０２２年

岡山県古代吉備文化財センター

表紙口絵　高尾北ヤシキ遺跡出土石製紡錘車

序

岡山県の埋蔵文化財行政の本格的体制整備は、昭和42年に山陽新幹線建設に伴う記録保存調査に対応するために、社会教育課に専門職員を２名配置したことが端緒となりました。その後、職員を増員し昭和45年に文化課を独立させるとともに、調査成果を早急に公開するため、年次報告『岡山県埋蔵文化財報告』を発刊しました。

急増する大規模開発に伴い、昭和51年に県庁舎外に発掘調査の本拠として設置した文化課分室を経て、昭和59年11月に岡山県古代吉備文化財センターが、県内の埋蔵文化財の保護と活用を図る拠点施設として開所されました。以降、現在に至るまで県教育庁文化財課において、文化財保護法に基づく各種届出・通知等文書事務、開発事業との調整、発掘調査受託契約、補助金事務に加えて工事立会調査を行い、古代吉備文化財センターが試掘確認調査と記録保存調査の実施、調査記録と出土品の収蔵管理、公開活用事業を担っています。

古代吉備文化財センター開所後も、文化財課とセンターが実施した埋蔵文化財行政に関する各業務については、文化財課が『岡山県埋蔵文化財報告』として継続刊行し、はや半世紀余りが経過しました。この間、社会的・経済的背景の変動と相俟って、埋蔵文化財行政を取り巻く諸環境は大きく変化してきました。とりわけ地域アイデンティティ醸成のためにも、調査研究の深化、成果の公開と活用、情報発信の重要性が今日再認識されています。こうした情勢を踏まえ、このたび、センターが果たす役割と責務を広く周知するため、県の埋蔵文化財の保護保存・公開と活用の記録として、センターが実施した諸事業を新たに年報としてまとめ、発刊することとしました。

本書が、地域史の解明や研究に広く寄与し、今後の取り組みへの道標となるとともに、埋蔵文化財保護のための資料となり、文化財保護意識の高揚へと繋がることを切に願います。

令和４年９月30日

岡山県古代吉備文化財センター
所　長　大　橋　雅　也

例　　言

1　本書は、岡山県古代吉備文化財センターが令和３年度に実施した事業の概要報告である。

2　本書中、「調査位置図」等の地形図には、国土交通省国土地理院発行の1/25,000地形図を複製及び加筆して使用している。

3　本書の執筆は各担当者が分担し、文末に示した。編集は調査第一課第一班が担当した。

目　　次

序
例　言
目　次
第１章　施設の概要……1
第２章　埋蔵文化財保護行政組織……3
第３章　事業の概要……5
第１節　発掘調査事業……5
（１）国庫補助事業……5
（２）県関係事業……5
（３）国等機関関係事業……5
第２節　報告書作成・刊行事業……6
（１）県関係事業……6
（２）国等機関関係事業……6
第３節　資料の収蔵管理と保存処理……6
（１）収蔵管理……6
（２）遺物の保存処理……7
第４節　公開活用事業……8
（１）講座・講演会・報告会……8
（２）発掘調査現地説明会・現場見学等……9
（３）体験学習等……10
（４）展示……12
（５）講師派遣……13
（６）刊行物等……13
（７）資料貸出・掲載許可・資料調査対応……15
（８）ホームページ・メールマガジン……20
（９）おかやま全県統合型ＧＩＳ……20
第５節　教育支援事業……20
（１）センター施設・発掘調査現場見学……20
（２）津島遺跡見学……21
（３）職場体験・出前授業……21
第６節　市町村支援事業……22
（１）災害復旧に伴う智頭往来志戸坂峠越確認調査……22
（２）町道泉・田ヶ原線新築に伴う発掘調査……22
第７節　専門職員研修等……22
（１）所内研修……22

（２）奈良文化財研究所文化財担当者研修受講……22
（３）埋蔵文化財担当職員等講習会受講……22
第８節　調査指導会等……23
（１）埋蔵文化財保護調査指導会……23
（２）埋蔵文化財専門委員による現地指導……24
（３）史跡こうもり塚古墳調査指導会……24
第９節　古代歴史文化に関する協同調査研究事業……24
第10節　労働安全衛生……25
（１）安全衛生委員会……25
（２）各種資格取得・受講……26
第11節　施設等の修繕……26
第12節　文化財保護法に基づく提出書類……27
（１）史跡の現状変更許可申請（法第125条）……27
（２）埋蔵文化財試掘確認調査の報告（法第99条）……27
（３）埋蔵文化財発掘調査の報告（法第99条）……27
（４）埋蔵文化財発見の通知（法第100条第2項）……28
第４章　調査の概要……29
第１節　確認調査概要……29
（１）高梁川河川整備事業に伴う確認調査（酒津遺跡）……29
（２）一般国道53号（津山南道路）改築工事に伴う確認調査（高尾宮ノ前遺跡）……30
（３）特別名勝岡山後楽園東広場有効活用策検討事業に伴う確認調査
（特別名勝岡山後楽園・史跡岡山城跡）……31
（４）特別名勝岡山後楽園二色が岡景観復元に伴う確認調査
（特別名勝岡山後楽園・史跡岡山城跡）……32
第２節　発掘調査概要
（１）一般国道374号（美作岡山道路）改築工事に伴う発掘調査
（大林遺跡・城田遺跡）……33
（２）一般国道53号（津山南道路）改築工事に伴う発掘調査
（高尾北ヤシキ遺跡・高尾宮ノ前遺跡）……34
（３）岡山地方法務局本局庁舎新営に伴う発掘調査（南方遺跡）……35
（４）警察本部宿舎建替整備事業に伴う発掘調査（百間川原尾島遺跡）……36
第３節「吉備路の歴史遺産」魅力発信事業……37

埋蔵文化財発掘調査報告

津島遺跡　岡山武道館練習道場建替工事に伴う発掘調査……39

第１章　施設の概要

１　設　　置　昭和59年11月1日（昭和59年9月25日岡山県条例第28号）

２　位　　置　岡山県岡山市北区西花尻1325－３

３　施設規模

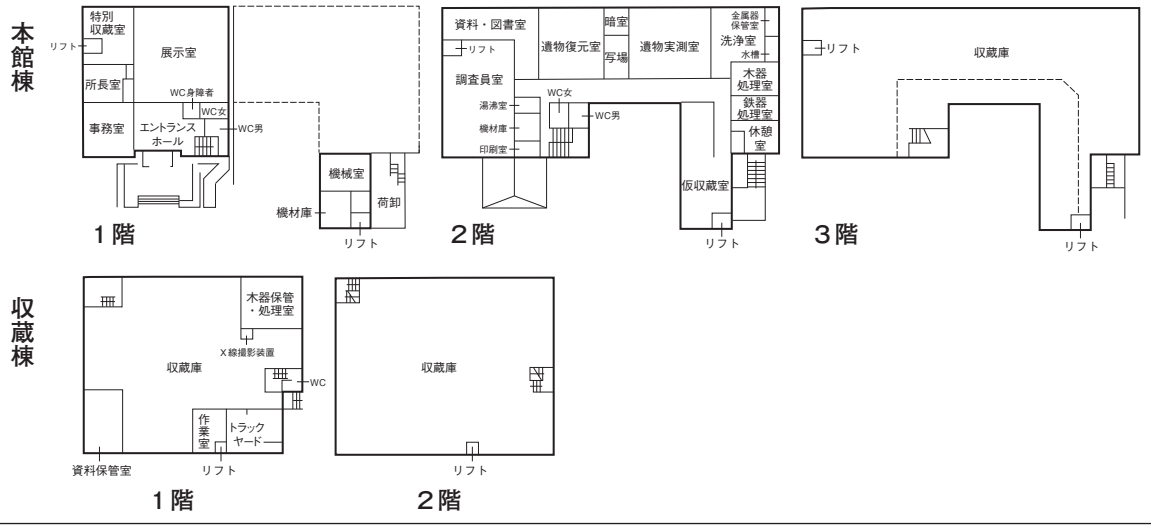
敷　地　53,688㎡（センター敷地52,738㎡　　三手収蔵庫敷地950㎡）

建　物　4,925㎡

種別	室名		面積（㎡）
本館棟	一階	エントランスホール	44
		所長室	31
		事務室	48
		展示室	177
		特別収蔵室	52
		機械室	32
		その他	82
		小計	466
	二階	調査員室	146
		資料・図書室	85
		遺物復元室	88
		写真室	35
		遺物実測室	116
		洗浄室	84
		木器処理室	31
		鉄器処理室	24
		休憩室	23
		仮収蔵室	94
		その他	181
		小計	907
	三階	収蔵庫	931
	合計		2,304

種別	室名		面積（㎡）
児童学習室			236
渡り廊下			39
収蔵棟	地階	ポンプ室消防水槽	23
	一階	収蔵庫	601
		木器保管・処理室	70
		資料保管室	59
		作業室	37
		その他	146
		小計	913
	二階	収蔵庫	875
		その他	38
		小計	913
	合計		1,849
三手収蔵庫			497
総計			4,925

施設配置図



４　沿　　革

昭和59年11月	開所
平成４年７月	収蔵棟完成
平成６年11月	開所10周年記念行事
平成９年10月	ホームページ開設
平成16年４月	展示室の休日公開開始
	遺跡地図情報システム公開
11月	開所20周年
平成17年３月	三手収蔵庫 （岡山市北区三手93-２）完成
平成26年９月	開所30周年記念シンポジウム開催

古代吉備文化財センター外観

５　条　　例

昭和五十九年九月二十五日
岡山県条例第二十八号

岡山県古代吉備文化財センター条例をここに公布する。

岡山県古代吉備文化財センター条例

（目的及び設置）

第一条　埋蔵文化財を保護するため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和三十一年法律第百六十二号）第三十条の規定により、岡山県古代吉備文化財センター（以下「文化財センター」という。）を岡山市に設置する。

（業務）

第二条　文化財センターは、前条の目的を達成するため、次の業務を行う。

一　埋蔵文化財の調査及び研究に関すること。

二　発掘により出土した文化財（次号において「出土品」という。）の整理､保存及び活用に関すること。

三　埋蔵文化財の発掘調査並びに出土品の整理及び保存に係る指導及び助言に関すること。

四　埋蔵文化財についての知識の普及及び啓発に関すること。

五　前各号に掲げるもののほか、埋蔵文化財を保護するために必要な業務

（職員）

第三条　文化財センターに、所長その他必要な職員を置く。

（その他）

第四条　この条例に定めるもののほか、必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附　則

この条例は、昭和五十九年十一月一日から施行する。

第２章　埋蔵文化財保護行政組織

１　令和３年度の体制

岡山県教育委員会

教 育 長　　鍵本　芳明

教育庁

教育次長　　池永　　亘

教育次長　　梅﨑　　聖

岡山県古代吉備文化財センター

所　　長　　大橋　雅也

次　　長　　浅野　勝弘

参　　事　　亀山　行雄
（文化財保護担当）

総括参事　　髙田恭一郎

総 務 課

課長事務取扱　浅野　勝弘

総 務 班

総括主幹　　多賀　克仁
（班　長）

主　　任　　井上　裕子

主　　事　　西山祐太朗

主　　事　　土光みづき

調査第一課

課長事務取扱　髙田恭一郎

第一班

総括副参事　　小林　利晴
（班　長）

副 参 事　　圍　　奈歩

主　　幹　　和田　　剛

主　　事　　山口　香織

第二班

総括副参事　　金田　善敬
（班　長）

主　　任　　藤井　翔平

主　　事　　小林有紀子

文化財課

課　　長　　小林　伸明

副 参 事　　尾上　元規

埋蔵文化財班

総括主幹　　河合　　忍
（班　長）

主　　幹　　松尾　佳子
（文化財センター兼務）

主　　事　　九冨　　一

調査第二課

課　　長　　澤山　孝之

第一班

総括主幹　　米田　克彦
（班　長）

主　　事　　四田　寛人

主　　事　　西村　　奏

第二班

総括副参事　　小嶋　善邦
（班　長）

主　　任　　樋口　英行
（高梁市から派遣）

主　　事　　藤井　雅大

調査第三課

課　　長　　弘田　和司

第一班

総括副参事　　渡邉恵里子
（班　長）

副 参 事　　岡本　泰典

主　　事　　北門幸二郎

第二班

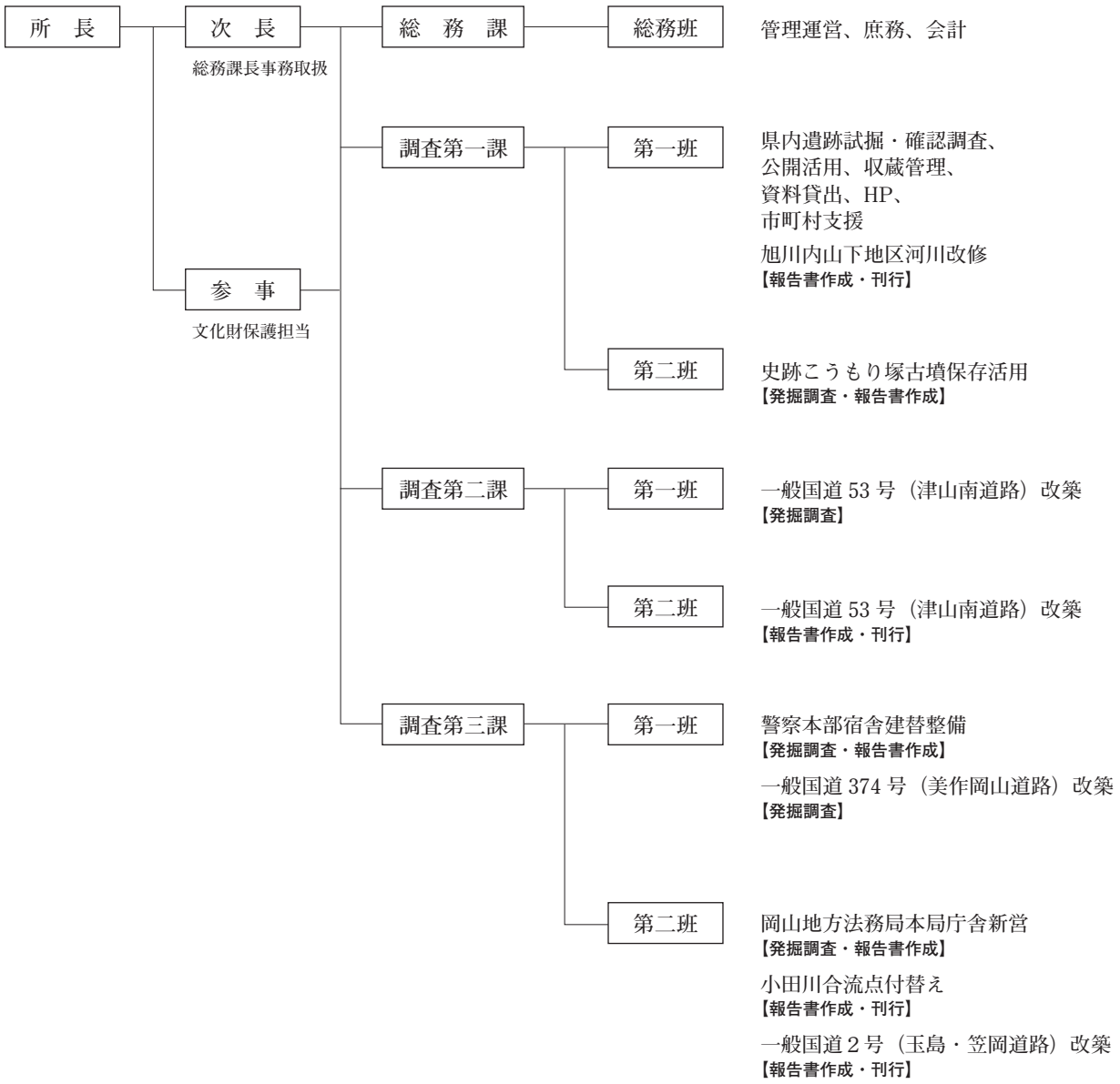
総括副参事　　氏平　昭則
（班　長）

副 参 事　　物部　茂樹

主　　幹　　石田　爲成

主　　事　　下　祐一朗
（６月23日～）

２　組織と業務



所　　長	１名
次　　長	１名
参　　事	１名
総務課職員	４名
調査課職員	23名
事　務　員	２名
事務補助員	２名
計	34名
（うち埋蔵文化財専門職員24名）	

第３章　事業の概要

第１節　発掘調査事業

（１）国庫補助事業

１　県内遺跡調査（試掘・確認調査）

開発事業者との連絡調整体制の整備を図るため、事前に開発事業予定地内の試掘・確認調査を行い、遺跡の範囲・内容等を把握し、遺跡を考慮した事業計画となるよう、保護保存に向けた基礎資料の作成を行った。

	原因事業	遺跡名等	調査面積	調査期間
1	高梁川河川整備事業	酒津遺跡（倉敷市）	2,500㎡	令和３年５月10日～６月11日
2	一般国道53号（津山南道路）改築工事	高尾宮ノ前遺跡（津山市）	52㎡	令和３年６月21日～６月25日
3	特別名勝岡山後楽園 東広場有効活用策検討事業	特別名勝岡山後楽園 史跡岡山城跡（岡山市）	36㎡	令和３年７月12日～７月16日

２　史跡こうもり塚古墳保存活用総合調査

史跡こうもり塚古墳の総合的調査研究を実施し、その歴史的価値付けを行うとともに、吉備路の歴史遺産の魅力を発信し、保存と活用を図った。

	事業名	史跡名	調査面積	事業期間
1	史跡こうもり塚調査保存活用総合調査	史跡こうもり塚古墳（総社市）	225.7㎡	令和３年４月１日～令和４年３月31日

（２）県関係事業

県機関が開発事業主体である２事業について依頼を受け、確認調査と記録保存調査を実施した。

	事業名	遺跡名等	調査面積	種別	事業期間
1	一般国道374号（美作岡山道路） 改築工事に伴う発掘調査	大林遺跡 城田遺跡（美作市）	3,800㎡	記録保存調査	令和３年４月１日～ 令和４年１月31日
2	特別名勝岡山後楽園二色が岡 景観復元事業に伴う確認調査	特別名勝岡山後楽園 史跡岡山城跡（岡山市）	7.5㎡	確認調査	令和４年２月１日～ ２月10日

（３）国等機関関係事業

国等機関が開発事業主体である３事業について委託を受け、記録保存調査を実施した。

	事業名	遺跡名	調査面積	種別	事業期間
1	一般国道53号（津山南道路） 改築工事に伴う発掘調査	高尾北ヤシキ遺跡 高尾宮ノ前遺跡（津山市）	4,175㎡	記録保存調査	令和３年４月１日～ 令和４年３月31日
2	警察本部宿舎建替整備事業に 伴う発掘調査	百間川原尾島遺跡（岡山市）	495㎡	記録保存調査	令和３年４月１日～ ６月30日
3	岡山地方法務局本局庁舎 新営に伴う発掘調査	南方遺跡（岡山市）	1,310㎡	記録保存調査	令和３年５月24日～ 令和４年２月28日

第２節　報告書作成・刊行事業

（１）県関係事業

県機関が開発事業主体である３事業について、発掘調査報告書を作成、刊行した。

	原因事業	遺跡名	内容	作成期間	報告書名
1	一般県道野々口長岡線改良工事	林原古墳群（岡山市）	作成 刊行	令和３年４月１日～ 令和４年３月31日	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告259
2	一般県道槇谷西山内線改良工事	粟井大塚古墳群（岡山市）	作成 刊行	令和３年４月１日～ 令和４年３月31日	
3	一般県道清音真金線改良工事	西加茂遺跡（岡山市）	作成 刊行	令和３年４月１日～ 令和４年３月31日	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告260

（２）国等機関関係事業

国等機関が開発事業主体である７事業に関して委託を受け、発掘調査報告書を作成、刊行した。

	原因事業	遺跡名	内容	作成期間	報告書名
1	一般国道53号（津山南道路）改築工事	桑山南古墳群ほか（津山市）	刊行	令和２年度	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告255
2	一般国道２号（玉島・笠岡道路）改築工事	城殿山遺跡・和田谷遺跡（浅口市）、マキサヤ遺跡（里庄町）	作成 刊行	令和３年４月１日～ 令和４年３月31日	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告256
3	小田川合流点付替え事業	南山城跡・南山明地古墳群ほか（倉敷市）	作成 刊行	令和３年４月１日～ 令和４年３月31日	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告257
4	旭川内山下地区河川改修工事	岡山城本丸跡・二の丸跡（岡山市）	作成 刊行	令和３年４月１日～ ９月30日	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告258
5	一般国道53号（津山南道路）改築工事	桑山古墳群ほか（津山市）	作成	令和３年４月１日～ 令和４年３月31日	令和４年度 刊行予定
6	警察本部宿舎建替整備事業	百間川原尾島遺跡（岡山市）	作成	令和３年７月１日～ 令和４年３月31日	令和４年度 刊行予定
7	岡山地方法務局本局庁舎新営	南方遺跡（岡山市）	作成	令和３年11月１日～ 令和４年３月31日	令和４年度 刊行予定

第３節　資料の収蔵管理と保存処理

（１）収蔵管理

報告書作成のための作業が終了した遺物について、報告書掲載遺物をＡ、非掲載図化遺物をＢ、非掲載未図化遺物をＣ、の３区分を行い、台帳作成の上、整理箱計494箱を収蔵した。いずれもＡについては本館棟３階収蔵庫、Ｂ・Ｃについては収蔵棟で保管管理している。

	遺跡名	掲載報告書名	Ａ箱数	Ｂ･Ｃ箱数	計
1	桑山南古墳群ほか	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告255	59	58	117
2	城殿山遺跡・和田谷遺跡・マキサヤ遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告256	31	117	148
3	南山城跡・南山明地古墳群ほか	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告257	37	32	69
4	岡山城本丸跡・二の丸跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告258	3	4	7
5	林原古墳群、粟井大塚古墳群	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告259	9	6	15
6	西加茂遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告260	44	83	127
7	一丁坑38号墳	紀要第２号	4	7	11
		計	187	307	494

（２）遺物の保存処理

１　木製品

２遺跡、３冊の発掘調査報告書に関係する44点の木製品について、PEG含浸処理作業を継続した。なお、既存木器処理含浸装置の老朽化のため追加導入を行った。

	遺跡名	報告書名	PEG含浸処理点数
1	津島遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告173	11
2	津島遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告190	15
3	百間川原尾島遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告234	18
		計	44

２　金属製品

発掘調査報告書作成、及び保存のため、18遺跡の金属製品について、X線44カット撮影、錆落とし293点、脱塩処理42点、BTA処理７点、樹脂含浸処理46点、表面樹脂塗布処理22点行った。

	遺跡名	処理内容（点数）					
		X線撮影（カット数）	錆落	脱塩	BTA処理	樹脂含浸	樹脂塗布
1	鬼城山	－	－	2	－	2	－
2	奈良井遺跡	－	－	11	－	11	－
3	百間川原尾島遺跡	－	7	1	－	1	－
4	百間川沢田遺跡	－	－	5	－	5	－
5	南山城跡	－	－	18	4	22	22
6	城殿山遺跡	2	－	－	－	－	－
7	岡山城跡	1	14	－	－	－	－
8	桑山１号墳	2	－	－	－	－	－
9	桑山２号墳	6	25	－	3	－	－
10	桑山３号墳	7	35	－	－	－	－
11	桑山４号墳	6	36	－	－	－	－
12	桑山５号墳	11	132	－	－	－	－
13	桑山古墳群	－	15	－	－	－	－
14	高尾北ヤシキ遺跡	3	－	－	－	－	－
15	高尾北ヤシキ古墳	1	－	－	－	－	－
16	勝負峪遺跡	－	4	－	－	－	－
17	林原古墳群	－	24	－	－	－	－
18	こうもり塚古墳	5	1	5	－	5	－
	計	44	293	42	7	46	22

第４節　公開活用事業

（１）講座・講演会・報告会

１　吉備の考古学講座「墳墓の考古学」

発掘調査によって明らかとなった県内各時代の墓をテーマとして、２回に分けてセンター職員が講義形式で紹介し、その歴史的意義について参加者の理解を深めた。なお、新型コロナ感染症対策のため、第２回の講座については、会場での講座の様子をセンターYouTube公式チャンネルで同時配信した。

本講座は岡山県立図書館との連携講座である。

会　場：岡山県立図書館多目的ホール

第２回講座の様子

	日　時	内　容・講　師	参加者数
第１回	令和３年11月21日(日) 13：30～15：40	講義１　「縄文・弥生時代の墳墓」 調査第三課総括副参事　氏平　昭則 講義２　「古墳時代の墳墓」 調査第二課主事　四田　寛人	42名
第２回	令和４年２月26日(土) 13：30～15：40	講義１　「古代の墳墓」 総括参事　髙田恭一郎 講義２　「中・近世の墳墓」 調査第三課長　弘田　和司	65名 ＊会場参加者数

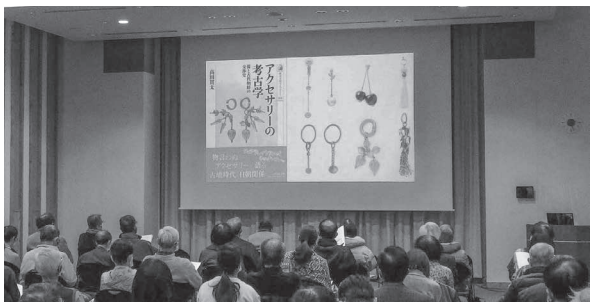
２　講演会「アクセサリーからみた古代」

「古代のアクセサリー」をテーマに、第一線で活躍されている考古学研究者を講師に迎え、古墳に副葬された装身具から導き出される岡山県の古墳時代社会を紹介するため講演会を行った。なお、新型コロナ感染症対策の一環で、事前録画した講演を会場で上映した。またこの講演会の様子をセンターYouTube公式チャンネルで同時配信した。本講演会は岡山県立図書館との連携講演会である。

会　場：岡山県立図書館多目的ホール

日　時	演　題	講　師	参加者
令和４年１月22日(土) 13：00～16：00	講演１　「玉から見た古墳時代」	奈良文化財研究所研究員 谷澤　亜里	63名 ＊会場参加者数
	講演２　「アクセサリーから見た倭と古代朝鮮の交渉史」	国立歴史民俗博物館教授 髙田　寛太	

谷澤亜里氏の講演



髙田寛太氏の講演

３　「大地からの便り2021」 県内の発掘調査報告会

県下各地で行われた近年の発掘調査について報告し、その成果を知る機会とし、郷土の歴史についての知識を深めた。令和３年度は５遺跡の紹介を予定し、令和３年９月４日(土) を開催日としたが、新型コロナ感染症対策のために会場開催を中止とした。このため、３遺跡についての報告映像を作成し、センター YouTube公式チャンネルで　令和３年11月19日～12月31日に配信した（総再生数604回)。なお、センター展示室において令和３年８月３日(火) ～11月３日(水) に報告会関連展示（城殿山遺跡、高尾北ヤシキ古墳出土品）を行った。

配信報告遺跡

	遺　跡　名	報　告　機　関
1	城殿山遺跡（浅口市）	岡山県古代吉備文化財センター
2	高尾北ヤシキ古墳ほか（津山市）	岡山県古代吉備文化財センター
3	阿波土居跡（真庭市）	真庭市教育委員会

（２）発掘調査現地説明会・現場見学等

１　発掘調査現地説明会

３遺跡について発掘調査の現地説明会を実施し、計238名の参加者を得た。なお、百間川原尾島遺跡（岡山市）については、開催計画準備をしたが、新型コロナ感染症対策のため開催中止とし、説明掲示と資料配付を行った。

遺　跡　名	開　催　日	対　象	参加者数
岡山城本丸跡・二の丸跡（岡山市）	令和３年４月24日(土)・25日(日)	一般	93名
史跡こうもり塚古墳（総社市）	令和３年11月23日(火)	一般（事前申込）	120名
高尾北ヤシキ遺跡（津山市）	令和４年２月16日(水)	地元（事前申込）	25名
		計	238名

岡山城本丸跡･二の丸跡の現地説明会

高尾北ヤシキ遺跡の現地説明会

２　発掘調査現場見学

調査現場が所在する地元をはじめ、民間団体等から６件の依頼を受け、計128名の発掘調査現場見学者を受け入れ、発掘調査状況の説明を行った。

見学受入遺跡名	見　学　日	団　体　名	見学者数
高尾北ヤシキ遺跡（津山市）	令和３年10月８日(金)	津山史跡探訪の会	21名
城田遺跡（美作市）	令和３年10月21日(木)	美作市歴史文化財研究会	12名
こうもり塚古墳（総社市）	令和３年10月22日(金)	岡山大学社会科学研究科	12名
高尾北ヤシキ遺跡（津山市）	令和３年11月10日(水)	佐良山公民館	28名
城田遺跡（美作市）	令和３年12月６日(月)	地元町内会	25名
南方遺跡（岡山市）	令和４年２月14日(月)	法務局	30名
		計	128名

（３）体験学習等

１　こども体験教室

小・中学生が、むかしのモノ作りを体験することを通して、郷土の歴史や埋蔵文化財に触れ親しむ機会とした。年間２回を企画したが、新型コロナ感染症対策のため、１回はＺＯＯＭによるリモートで開催し、１回はやむなく中止とした。

対　象：小学５・６年生とその保護者、中学生

子ども達の作品

	日　時	内　容	参加者数
第１回	令和３年５月22日(土) 13：00～14：30	「分銅形土製品をつくろう」	13名　リモート開催
第２回	令和３年８月21日(土)	「塩をつくろう」	中止

２　夏休み企画☆ワクワク古代体験！

夏休み期間に、土器に触れる体験や勾玉・鏡づくりのモノ作り体験、出土品展示を実施し、地域の歴史を身近に体感できる機会とした。

会　場：岡山県生涯学習センター・人と科学の未来館サイピア

期　間：令和３年７月27日(火)～７月30日(金)

内　容：

体験　勾玉づくり、鏡づくり

展示　①津島遺跡、伊福定国前遺跡の出土品及びパネル展示

②日本遺産「桃太郎伝説の生まれたまち　おかやま」関連出土品及びパネル展示

参加者総数：262名

鏡づくりの様子

３　津島遺跡やよいまつり

復元整備された史跡津島遺跡での自由参加型の古代体験を通して、津島遺跡を身近に感じる機会を提供し、埋蔵文化財の保護・保存に対する理解を深めた。

会　場：津島やよい広場、遺跡＆スポーツミュージアム（岡山県総合グラウンド内）

開催日：令和３年10月23日(土)、24日(日)

内　容：体　　験　　火起こし、勾玉づくり、石包丁による古代米の収穫、籾すり

展示見学　　遺跡＆スポーツミュージアムの展示解説、復元住居・建物の解説

そ の 他　　会場内でのクイズラリー

参加者総数：728名

石包丁による古代米収穫体験

復元竪穴住居の解説

４　吉備路ウオーク

吉備路の歴史遺産である史跡造山古墳とその周辺陪塚群を解説しながら歩いて巡り、参加者が郷土の歴史に親しむ機会とした。

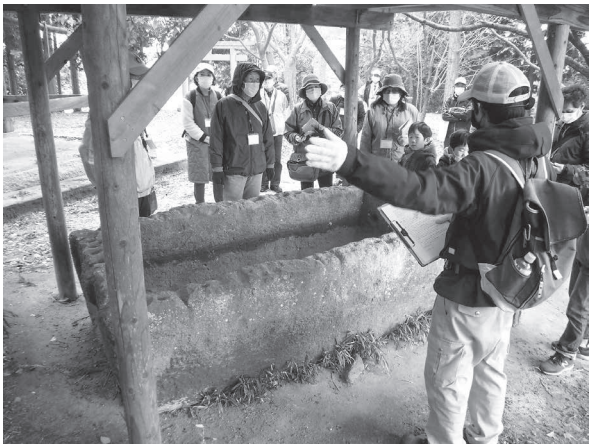
開催日時：令和３年12月４日(土)

9：30～12：00

開催場所：史跡造山古墳とその陪塚

参加者数：30名

千足古墳（造山古墳第５古墳）の解説



造山古墳前方部の石棺の解説

５　津島遺跡ボランティア

津島遺跡を中心とした埋蔵文化財に関する普及啓発活動の運営を円滑に進めるため、平成23年度から津島遺跡ボランティアを結成し、12年目を迎えた。令和３年度は15名の登録を得て、各種の公開活用事業において活動した。

活動実績

ボランティア連絡会議３回（研修含む）

津島遺跡小学校見学対応：７校

夏休み企画☆ワクワク古代体験！・津島遺跡やよいまつりスタッフ参加

津島遺跡やよい農園田植え・稲刈り

（４）展示

展示室において、常設展示、２回の企画展示、５つのテーマ展示と発掘調査報告会「大地からの便り2021」関連展示を行った。なお、新型コロナ感染症対策のため、令和３年５月13日～６月20日迄、８月20日～９月30日迄は閉館とした。この５～６月にかけての閉館期間を利用し、常設展示品の入替を実施した。また、３月には、おかやまFreeWiFiを導入し、入館者の利便向上を図った。

令和３年度の入館者数は2,842名（小学校等の施設見学者数含む）であり、年間開館日数は257日であった。

展示室

企画展１「食を料る」

種　別	会　期	タイトル・テーマ
企画展１	令和３年４月27日(火)～11月３日(水)	食を料る
企画展２	令和３年11月５日(金)～令和４年５月15日(日)	真金吹く吉備
テーマ展示１	令和３年１月13日(水)～８月１日(日)	古墳時代の玉類－岡山県－
テーマ展示２	令和３年７月５日(月)～令和４年２月27日(日)	顔のある焼きもの
テーマ展示３	令和３年８月３日(火)～令和４年２月27日(日)	あそびの道具
テーマ展示４	令和３年11月５日(金)～12月27日(日)	銀で飾られた大刀
テーマ展示５	令和４年１月５日(水)～２月27日(日)	古墳時代の玉類－岡山県－
関連展示	令和３年８月３日(火)～11月３日(水)	大地からの便り2021
特別展示	令和３年４月７日(水)～令和３年５月９日(日)	高尾北ヤシキ古墳出土「筒形土製品」

月別展示室入館者数

年	月	入館者数	入館者数内訳								開館日数	１日平均入館者数
			個　人	(うち子ども)	団体 一般		団体 学校		団体 小計			
					団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数		
R3	4	478	201	(22)	10	194	1	83	11	277	30	15.9
	5	143	136	(14)	3	7	0	0	3	7	12	11.9
	6	156	46	(4)	2	12	2	98	4	110	10	15.6
	7	297	134	(21)	2	10	3	153	5	163	31	9.6
	8	130	108	(22)	1	12	1	10	2	22	19	6.8
	9	0	0	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0
	10	426	164	(15)	4	43	3	219	7	262	30	14.2
	11	468	440	(173)	1	28	0	0	1	28	29	16.1
	12	185	125	(4)	4	24	1	36	5	60	28	6.6
R4	1	228	200	(20)	3	28	0	0	3	28	28	8.1
	2	181	161	(16)	2	20	0	0	2	20	27	6.7
	3	150	110	(15)	3	40	0	0	3	40	13	11.5
合　計		2,842	1,825	(326)	35	418	11	599	46	1,017	257	11.1
参考R2年度		(2,978)	(2,156)	(185)	(40)	(384)	(8)	(438)	(48)	(822)	(326)	(9.1)

＊　3/1～18は展示施設改修のため休館とした。

（５）講師派遣

依頼を受け、職員を派遣し、体験学習、講座講師を行った。総受講者数は323名であった。

講座・講演内容	開催日	団体名	担　当	受講者数
岡山の古墳＆勾玉づくり	令和３年８月５日(木)	倉敷市玉島 市民交流センター	調査第一課	40名
勾玉づくり	令和３年８月６日(金) 12日(木)	おひさま高島事業所	調査第一課	46名
「高梁市内の中世山城」	令和３年11月20日(土)	高梁歴史いろは塾	小林利晴 総括副参事	50名
「大渡城とその周辺」	令和３年12月５日(日)	総社市昭和公民館	小林利晴 総括副参事	28名
「日本遺産的!?箭田大塚古墳の楽しみ方」	令和４年３月19日(土)	倉敷市日本遺産 推進協議会	金田善敬 総括副参事	30名
「備前市長縄手遺跡の調査」	令和４年３月26日(土)	備前郷土史研究会	亀山行雄 参事	46名
「篠向山の立地と篠向山城の歴史」	令和４年３月27日(日)	篠向山城を愛し 城址を大切にする会	小林利晴 総括副参事	83名

（６）刊行物等

１　所報吉備

センターの事業・活動を広く周知するため、年間２冊（第71号、第72号）を刊行した。

体　　裁：カラー印刷　Ａ４版、８頁

刊行部数：1,000部

２　紀要第２号

センターの調査・研究活動及び公開活用事業の成果を広く情報発信し、本県の埋蔵文化財に対する理解を深める契機とするため、紀要第２号を刊行した。

体　　裁：Ａ４版、76頁

内　　容：研究報告５、調査報告１

刊行部数：300部

３　遺跡めぐりマップ『おかやま☆遺跡探訪　岡山市南部とその周辺』

遺跡に親しむ機会とするため、県内の主要遺跡、出土品展示施設を紹介する地図を刊行した。なお、これまでに７冊（『吉備路とその周辺』、『両宮山古墳とその周辺』、『瀬戸内市とその周辺』、『津山市街地とその周辺』、『高梁川西岸の遺跡』、『備中北部と美作西部の遺跡』、『美作市とその周辺』）を刊行しており、令和３年度刊行が８冊目となる。

体　　裁：カラー印刷、Ａ２版（蛇腹六つ折り）

内　　容：岡山市・倉敷市・玉野市・早島町の４市町村の主な遺跡、出土品展示施設等を掲載。
掲載遺跡等68か所

刊行部数：10,000部

４　パンフレット『発掘！南山城跡』

平成29年から令和元年にかけて記録保存調査を実施した南山城跡（倉敷市）の調査成果の一般向け概要報告として、パンフレットを作成、配布した。

体　　裁：カラー印刷　Ａ４版、８頁

刊行部数：5,000部

５　パンフレット『国指定史跡こうもり塚古墳』

史跡こうもり塚古墳保存活用総合調査にあわせ、こうもり塚古墳についてその歴史的価値を広く周知するため、パンフレットを作成、配布した。

体　　裁：カラー印刷、Ａ４版（三つ折り）、６頁

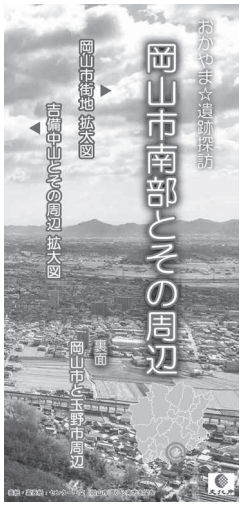
刊行部数：5,000部

６　史跡こうもり塚古墳ＶＲ映像の公開

岡山県立岡山工業高等学校と連携し、STEAM教育の一環として、令和２年度に作成したこうもり塚古墳の横穴式石室のＶＲ映像を、センターエントランスにて３ＤゴーグルとＰＣで一般公開した。

７　史跡こうもり塚古墳紹介360°動画の作成

史跡こうもり塚古墳保存活用総合調査にあわせ、こうもり塚古墳についてその歴史的価値を広く周知するため、ドローン映像や石室の360°映像を用いた紹介動画を作成した。



遺跡めぐりマップ
『おかやま☆遺跡探訪
岡山市南部とその周辺』

パンフレット
『発掘！南山城跡』

史跡こうもり塚古墳ＶＲ映像の画像

（７）資料貸出・掲載許可・資料調査対応

１　収蔵遺物資料貸出

10件、計116点の収蔵遺物資料貸出を行った。

	依　頼　者	資　料	点数	目　的	期　間
1	岡山県立博物館	高塚遺跡出土 突線鈕流水文銅鐸・貨泉・棒状銅製品 津島遺跡出土木製品 岡山後楽園出土花交の池木樋管 上東遺跡出土製塩土器 中撫川遺跡出土弥生土器、 仏生田遺跡出土弥生土器	39	展示	令和３年４月１日～ 令和４年３月31日
2	野﨑家塩業歴史館	阿津走出遺跡出土製塩土器 上東遺跡出土製塩土器	2	展示	令和３年４月１日～ 令和４年３月31日
3	大阪府立 弥生文化博物館	百間川原尾島遺跡出土打製石包丁 菰池遺跡出土打製石包丁	2	常設展示・収蔵展示	令和３年４月１日～ 令和４年３月31日
4	美作市教育委員会	高本遺跡出土遺物 大海廃寺出土遺物	34	高本遺跡：高本公民館展示 大海廃寺：作東歴史民俗資料館展示	令和３年４月１日～ 令和４年３月31日
5	吉備路文化館	備中国分寺・国分尼寺出土瓦	4	展示	令和３年４月１日～ 令和４年３月31日
6	島根県立 古代出雲歴史博物館	百間川沢田遺跡出土 壺・甕・蓋 田益田中遺跡出土 人面土製品	7	令和３年度企画展「CAME ON　山陰弥生ライフ」展示	令和３年８月16日～ 12月10日
7	備前市立 備前焼ミュージアム	百間川原尾島遺跡出土 彩文土器 雄町遺跡出土弥生土器 菅生小学校裏山遺跡出土 縄文土器	4	令和３年度企画展「焼物に映し出された美意識の時代的変遷」展示	令和３年８月３日～ 12月28日
8	岡山理科大学教授 白石　純	大河内遺跡出土石器	18	蛍光Ｘ線による産地分析（非破壊分析） 科学研究費「旧石器時代サヌカイトの流通に関する体系的研究：東瀬戸内地域を中心に」	令和３年12月６日～ 12月27日
9	岡山県立博物館	西江遺跡出土 特殊器台、特殊壺	2	展示	令和３年12月20日～ 令和４年３月31日
10	たつの市教育委員会	高下遺跡出土打製石剣 百間川今谷遺跡出土 打製石剣 高松田中遺跡出土鑿	4	令和３年度たつの市立埋蔵文化財センター特別展「弥生人の道具箱－新宮宮内遺跡出土石器から－」展示	令和４年１月27日～ ３月31日

２　写真画像等資料貸出・掲載許可

53件、計152点の写真画像等資料貸出・掲載許可を行った。

番号	依　頼　者	遺跡名　画像等資料名	点数	目　的
1	広島県立歴史博物館	センター HP　加茂政所遺跡分銅形土製品	1	令和３年度企画展参考パネル使用
2	設楽博己	センター HP　西江遺跡特殊器台・特殊壺	1	『国華』1508号掲載論文「弥生土器の文様とかたち」掲載
3	株式会社エディキューブ	センター HP　造山古墳航空写真、矢部堀越遺跡特殊器台形埴輪	2	『歴史人』６月号（株式会社ABCアーク発行）本誌、電子版に掲載
4	岡山県教職員組合	県報告84「百間川沢田遺跡３」巻頭図版１－３縄文時代後期の土器	1	『夏休みの友』（岡山県教職員組合発行）に掲載
5	山陽リビングメディア	造山古墳（上空からの全景）	1	「さりお」４/23号掲載
6	光村推古書院株式会社	パンフレット『百間川の遺跡探検』彩文土器出土状況、鹿角製鳥形短剣、鹿角製指輪形製品 県報告56「百間川原尾島遺跡２」彩文土器 県報告94「足守川加茂Ａ遺跡」巻頭図版７－１竪穴住居14出土線刻土器 県報告119「百間川沢田遺跡４」鹿角製指輪形製品 県報告125「伊福定国前遺跡」人形土製品	8	誉田亜紀子著『かわいい古代（仮）』に掲載
7	山陽新聞社文化部	県報告192「久田堀ノ内遺跡」図版70－３洪水砂の状況	1	遺跡の災害痕をテーマにした山陽新聞特集記事に掲載
8	株式会社梓書院	上東遺跡出土桃核 ＊執筆者撮影	1	雑誌『邪馬台国』140号掲載
9	株式会社梓書院	県報告34「栢寺廃寺」図版１－１門満寺全景	1	雑誌『邪馬台国』140号掲載
10	有限会社ブックポケット	県報告94「足守川加茂Ａ遺跡」巻頭図版７－１竪穴住居14 出土線刻土器 県報告157「上東遺跡」巻頭図版３絵画文土器２面	3	『図説　日本妖怪史』（仮題）（河出書房新社刊、香川雅信（兵庫県立歴史博物館学芸課長）著）に掲載
11	グループ・コロンブス有限会社	県報告150「高塚遺跡」巻頭図版５－２フロヤ調査区袋状土壙18出土貨泉	1	「作って学ぼう！　日本の歴史ペーパークラフト　古代編」（あかね書房発行）に掲載
12	株式会社梓書院	県報告173「津島遺跡４」巻頭図版４－１河道１建築部材検出状況、巻頭図版７－１河道１北岸出土木器 リーフレット「国指定史跡 津島遺跡」小学校見学の様子 パンフレット「津島遺跡 発掘調査・40年のあゆみ」特殊な壺と器台	4	雑誌『邪馬台国』140号掲載
13	株式会社スタジオタックリエイティブ	センター HP　西江遺跡出土特殊器台・特殊壺、センター外観、展示室	3	『マンガで楽しむ歴史図鑑「はにわ」』（仮題）に掲載
14	公益財団法人千里文化財団	県報告100「南溝手遺跡１」巻頭図版２縄文時代後期後葉の籾痕土器、図版41－２河道１出土縄文時代晩期籾痕土器 県報告107「南溝手遺跡２」S525・S526・S540・S547集合写真	5	『季刊民族学』177号　藤尾慎一郎著「稲作以前の考古学」に掲載
15	島根県立古代出雲歴史博物館	県報告59「百間川沢田遺跡２」、県報告84「百間川沢田遺跡３」 弥生土器６点の集合写真 ＊依頼者撮影	1	令和３年度企画展「CAME ON 山陰弥生ライフ」図録・パネル・各種広報素材等に使用

番号	依　頼　者	遺跡名　画像等資料名	点数	目　的
16	島根県立 古代出雲歴史博物館	県報告100「南溝手遺跡１」巻頭図版４－２弥生時代前期の竪穴住居２出土石器 県報告140「田益田中遺跡」巻頭図版２　４区河道11出土線刻人面土製品	2	令和３年度企画展「CAME ON 山陰弥生ライフ」図録・パネル・各種広報素材等に使用
17	木簡学会	会誌『木簡研究』第22号掲載図版 原稿名：「岡山・岡山城二の丸跡」	1	『木簡研究』より転載
18	株式会社梓書院	パンフレット「甦る！古代吉備の国　謎の鬼ノ城」鬼ノ城全景、城門 センター HP　特殊器台と特殊壺（新見市西江遺跡）、造山古墳空撮写真	3	東京新聞・中日新聞連載企画「よもやま邪馬台国」に掲載
19	島根県立 八雲立つ風土記の丘	県報告138「加茂政所遺跡」カラー写真３ 顔のある分銅形土製品	1	ミニ企画展「出土品からみる顔」参考資料として紹介
20	株式会社新泉社	県報告150「高塚遺跡」第1215図4497、第1217図4513 ＊岡山市教委撮影画像の使用許可	2	『倭国の古代学ー「日本国」以前』（坂 靖著）掲載
21	備前市立 備前焼ミュージアム	パンフレット「百間川の遺跡探検」彩文土器	1	備前市立備前焼ミュージアム令和３年度企画展「焼物に映し出された美意識の時代的変遷」チラシ及び図録掲載
22	備前市立 備前焼ミュージアム	県報告１「雄町遺跡」第59図89（高杯） 県報告81「菅生小学校裏山遺跡」第23図42、第30図185	3	備前市立備前焼ミュージアム令和３年度企画展「焼物に映し出された美意識の時代的変遷」チラシ及び図録掲載
23	和田　剛	県報告89「甫崎天神山遺跡」図版32－２堀切断面	1	全国城郭研究者セミナー、スライド資料利用
24	株式会社童夢	センター HP　百間川原尾島遺跡の稲株痕跡	1	「イネ・米・ごはん大百科」（2020年４月、ポプラ社刊）の電子書籍化
25	株式会社ＰＨＰ研究所	センター HP　才田城跡遠景	1	月刊誌「歴史街道」2021年11月号「物心両面で備中松山藩を改革した陽明学者・山田方谷（仮）」に掲載
26	株式会社風詠社	県報告94「足守川加茂Ａ遺跡」巻頭図版７－１竪穴住居14出土線刻土器	1	『古墳壁画の解読』（長尾志朗著）掲載
27	株式会社筑摩書房	県報告150「高塚遺跡」巻頭図版５－２フロヤ調査区袋状土壙18出土貨泉	1	『はじめての考古学』（松木武彦著）掲載
28	株式会社グレイル	「所報吉備」第54号 上相遺跡　鍛冶工房と見られる建物 鍛冶屋迨Ｂ古墳群　陶棺を納めたＢ１号墳の石室	2	TJMOOK『古代史の「舞台」を歩く』（宝島社発行）掲載
29	株式会社誠文堂新光社	「南山城跡現地説明会資料」写真２　畝状竪堀群	1	「日本の城語辞典」（株式会社誠文堂新光社刊）掲載
30	一般社団法人 Plenus米食文化研究所	センター HP　加茂政所遺跡出土分銅形土製品、弥上古墳出土陶棺（展示状況） パンフレット「津島遺跡を探る２」弥生時代前期水田 県報告239「百間川原尾島遺跡」巻頭図版３－１弥生時代後期水田 県報告177「上神代狐穴遺跡」巻頭図版１－１遺構集中箇所	5	Plenus米食文化研究所HP　米と地域文化に掲載
31	株式会社童心社	造山古墳航空写真	1	『遺跡から調べよう！③古墳時代』（設楽博己編著）に掲載

番号	依　頼　者	遺跡名　画像等資料名	点数	目　的
32	一般社団法人 Plenus米食文化研究所	センター HP　阿津走出遺跡出土製塩土器	1	Plenus米食文化研究所HP 米と地域文化に掲載
33	上栫武	県報告213「穴が迩古墳」写真43 刀装具文様アップ	2	『津山市史研究』第７号、投稿論文に掲載
34	株式会社グレイル	センター HP　上東遺跡　桃核が出土した波止場状遺構、卜骨、出土した土器	3	TJMOOK『古代史の「舞台」を歩く』（仮題）（宝島社発行）掲載
35	株式会社童心社	センター HP　新見市西江遺跡「特殊器台と特殊壺」	1	『遺跡から調べよう！③古墳時代』（設楽博己編著）に掲載
36	美咲町教育委員会	センター HP　造山古墳航空写真	1	「中央町誌通史編」に掲載
37	岡山県立博物館	県報告15「光坊寺古墳群」図版17－２・４ 県報告82「矢部奥田遺跡」巻頭図版２－１ 県報告84「百間川沢田遺跡３」図版67－１ 県報告93「下郷原田代遺跡」図版30－１ 県報告121「中山古墳群」巻頭図版３（下） 県報告150「高塚遺跡」図版７－３ 県報告183「樋ヶ鼻遺跡」図版１－２ 県報告213「中町Ｂ遺跡」巻頭図版６ 県報告218「八塚古墳群」図版１－２ 県報告239「百間川原尾島遺跡８」巻頭図版１－１ パンフレット「謎の鬼ノ城」城壁	12	考古部門展示の説明パネルに使用
38	美咲町教育委員会	県報告116「津寺遺跡４」図版114－１竪穴住居－７、図版114－３ 竪穴住居－７カマド近接	2	「中央町誌通史編」掲載
39	株式会社ベネッセコーポレーション	県報告150「高塚遺跡」巻頭図版４　高塚銅鐸Ｂ面	1	中学生向け通信教育教材に掲載
40	一般社団法人 全国農業改良普及支援協会	センター HP　造山古墳航空写真	1	月刊「技術と普及」2022年１月号、連載「農と地域の生態社会学（第16回）」（東京都立大学人文社会学部教授　山下祐介著）に掲載
41	株式会社講談社エディトリアル	県報告20「西江遺跡」第169図 特殊器台１	1	書籍「密策」に掲載
42	たつの市教育委員会	県報告123「高下遺跡」第15図35（打製石剣） 県報告51「百間川今谷遺跡」第392図198・199（打製石剣） 県報告121「高松田中遺跡」第12図Ｍ１（鑿）	4	令和３年度 たつの市立埋蔵文化財センター特別展「弥生人の道具箱－新宮宮内遺跡　出土石器から－」展示解説図録に掲載
43	美咲町教育委員会	県報告56「百間川原尾島遺跡２」図版23－１ 弥生時代後期水田	1	「中央町誌通史編」に掲載
44	魚沼市教育委員会	「所報吉備」第44号　平岩古墳出土柄頭	1	「魚沼市古林古墳群出土銀象眼柄頭」参考資料として、報道機関添付資料に掲載 遺跡報告会配布資料に掲載
45	美咲町教育委員会	「所報吉備」54　上相遺跡の古道 「所報吉備」60　初和古墓の塚状高まりと宝筐印塔・五輪塔の集積 県報告３「下市瀬遺跡」図版15－１Ｄ調査区井戸１周辺舟形木製品 県報告170「城峪城跡」図版44－１ 城郭全景 県報告192「久田堀ノ内遺跡」巻頭図版１－１中世居館 「岡山県中世城館跡総合調査報告書」第３冊－美作編－ 第192図 岩屋城跡と陣城群	9	「中央町誌通史編」に掲載

番号	依　頼　者	遺跡名　画像等資料名	点数	目　的
46	兵庫県立考古博物館	県報告88「百間川原尾島遺跡３」図版10－１　竪穴住居６ 県報告53「奥坂遺跡」第240図18（短剣） 県報告88「百間川原尾島遺跡３」第32図Ｍ５（短剣）	4	令和４年度春季特別展「弥生集落転生～大中遺跡とその時代～」図録に掲載、講演会スライド等で使用
47	山陽新聞社	「岡山県中世城館跡総合調査報告書」第１冊－備前編－第22図 虎倉城跡縄張り図、第34図 金川城跡縄張り図、第120図三石城跡縄張り図、第161図乙子城跡縄張り図、第164図砥石城跡縄張り図、第181図常山城跡縄張り図 「岡山県中世城館跡総合調査報告書」第２冊－備中編－第９図 楪城跡縄張り図、第107図鶴首城・古鶴首城跡縄張り図、第115図国吉城跡縄張り図、第136図備中松山城跡・大松山城跡・備中松山城御根小屋跡縄張り図、第197図猿掛城跡縄張り図、第224図鬼身城跡縄張り図、第332図備中高松城水攻め陣営配置図、第350図幸山城跡縄張り図	14	「新釈備前軍記」（1986年出版、柴田一編著）、 「新釈備中兵乱期」（1987年出版、加原耕作編著）改訂版に掲載
48	公益財団法人 岡山県郷土文化財団	「所報吉備」63　高梁川・小田川と総社平野を望む南山城跡 「所報吉備」65　南山城跡　西側の切岸、横矢がかりの平坦地 「所報吉備」66　南山城跡　曲輪、北西側の堀切と竪堀、最も規模の大きい堀切 「所報吉備」67　南山城跡　頂部の曲輪、頂部の曲輪と腰曲輪、南斜面の畝状竪堀群 「所報吉備」68　南山城跡　南山城跡の畝状竪堀群、全貌が現れた南山城跡、土塁の土層断面、現地説明会の様子、南山城跡の出土遺物 県埋文報告49　南山城跡の全景 南山城跡現地説明会資料　南山城跡 ⑧切岸、⑫～⑭堀切 大地からの便り2019配付資料　南山城跡 空中写真 センターHP　南山城跡　曲輪、北東斜面、集石、北斜面、遠景、横堀、虎口１で見つかった門の礎石、土塁上に集められた投石	25	「岡山の自然と文化」41号に掲載
49	神奈川県立歴史博物館	県報告19「城遺跡」第12図88（舟の線刻のある壺） 県報告94「足守川加茂Ａ遺跡」巻頭図版７－２包含層出土線刻土器	2	特別展「洞窟遺跡を掘る－海蝕洞窟の考古学－」展示図録に掲載 会場展示パネルに使用
50	株式会社ひでみ企画	センター外観、展示室の様子	2	「共済広報５月号」（岡山県市町村職員共済組合発行）掲載
51	株式会社ゴッズダイナミックワールド	センターHP　百間川原尾島遺跡の稲株痕跡	1	「関口宏の一番新しい古代史」（BS-TBS）にて使用
52	岡山県生涯学習センター 人と科学の未来館サイピア	県報告247「岡山城二の丸跡」第43図Ｓ５･Ｓ６（鳴滝砥石） ＊依頼者撮影	2	春季企画展「47Ｓtones Stories－47の石ものがたり－」広報に使用
53	「然」出版会	センター平成28年度考古学講座第４回「古代の道をたどる」配付資料収載地図	1	総社地域情報紙「然」40号に掲載

３　資料調査対応

大学教官、学生、都道府県・市町村埋蔵文化財専門職員等の研究、及び博物館特別展等の準備のため、依頼された収蔵資料調査に対応した。令和３年度は27件の申請、約800点以上の資料調査に対応した。

（８）ホームページ・メールマガジン

センターホームページ（https://www.pref.okayama.jp/site/kodai/）の内容について52回更新し、計104,911アクセスを得た。メールマガジン（岡山県メールマガジン「メルマガ晴れの国：大地からの便り」）の現在の登録者数は328人であり、年間48回発行した。このほか、Facebookを利用し、実施事業の広報を行った。

（９）おかやま全県統合型ＧＩＳ

センターが発掘調査、報告書作成等で関係した県内の埋蔵文化財包蔵地情報について、情報更新票を作成した。令和３年度は新規７件を作成し、既知43件についてその内容を更新し、県文化財課に提出した。この情報は県文化財課から該当市町村に照会確認を行った後、埋蔵文化財包蔵地登録更新となり、「おかやま全県統合型ＧＩＳ」において公開される。

なお、本節に記した公開活用事業のうち下記のものは国庫補助事業（地域の特色ある埋蔵文化財活用事業）である。

● 吉備の考古学講座　● 講演会「アクセサリーから見た古代」　● 夏休み☆ワクワク古代体験！
● こども体験教室　● 津島遺跡やよいまつり　● 吉備路ウオーク　● 遺跡めぐりマップ作成
● パンフレット『国指定史跡こうもり塚古墳』作成　● 史跡こうもり塚古墳紹介360°動画作成

第５節　教育支援事業

（１）センター施設・発掘調査現場見学

センター施設や発掘調査現場での校外学習を受入れ、施設内の調査作業や発掘調査現場作業、出土品解説などを行い、歴史学習支援を行った。令和３年度は12校、計661名を受け入れた。

	見　学　日	学　校　名	人　数	見学場所
1	令和３年４月27日(火)	岡山市立中山小学校	83名	センター
2	令和３年６月25日(金)	岡山市立妹尾小学校	84名	センター
3	令和３年６月30日(水)	岡山市立七区小学校	14名	センター
4	令和３年７月２日(金)	岡山市立芳明小学校	79名	センター
5	令和３年７月２日(金)	岡山市立第二藤田小学校	55名	センター
6	令和３年７月14日(水)	岡山市立馬屋下小学校	19名	センター
7	令和３年10月１日(金)	久米南町立神目小学校	22名	南方遺跡調査現場（岡山市）
8	令和３年10月18日(月)	鏡野町立南小学校	57名	センター
9	令和３年10月19日(火)	岡山市立御南小学校	135名	センター
10	令和３年10月21日(水)	総社市立神在小学校	27名	センター
11	令和３年11月17日(水)	津山市立佐良山小学校	50名	高尾北ヤシキ遺跡調査現場（津山市）
12	令和３年12月２日(木)	岡山市立桃丘小学校	36名	センター

（２）津島遺跡見学

史跡整備した津島遺跡（岡山市）と遺跡＆スポーツミュージアムでの校外学習を受入れ、弥生時代の暮らしを中心に説明を行い、歴史学習の一助とした。令和３度は８校、計832人を受け入れた。なお、説明にはミュージアムスタッフ、津島遺跡ボランティアの援助を得た。

	見　学　日	学　校　名	人　数
1	令和３年４月28日(水)	岡山市立西小学校	182名
2	令和３年４月30日(金)	岡山市立鹿田小学校	156名
3	令和３年５月６日(木)	岡山市立南輝小学校	85名
4	令和３年６月23日(水)	岡山市立伊島小学校	172名
5	令和３年６月29日(火)	岡山市立津島小学校	143名
6	令和３年10月１日(金)	久米南町立神目小学校	22名
7	令和３年10月20日(水)	ノートルダム清心女子大学附属小学校	62名
8	令和３年11月２日(火)	吉備中央町立大和小学校	10名

（３）職場体験・出前授業

センターでの進路学習・職場体験､学校への出前授業を行った｡令和３年度は計４校70名の児童・生徒を対象とした。

	日	内容	学校種	学校名	人数	場所
1	令和３年８月２日(月)	進路学習	高等学校	県立倉敷青陵高等学校	10名	センター
2	令和３年11月11日(木)	出前授業	中学校	岡山市立吉備中学校	48名	学校
3	令和３年11月25日(木)	出前授業	小学校	吉備中央町立大和小学校	9名	学校
4	令和３年12月７日(火) ～９日(木)	職場体験	中学校	岡山市立御南中学校	3名	センター 南方遺跡調査現場

小学校センター見学

小学校津島遺跡見学

学校利用によるセンター施設、発掘調査現場、津島遺跡見学、職場体験、出前授業の総計は、24校、1,597人であった。このほか､生涯学習課が管理する教育支援デジタルコンテンツ『おかやま　まなびとサーチ』にセンター関連の３本の動画と学習支援パンフレット２冊を登録している。

第６節　市町村支援事業

埋蔵文化財専門職員が配置されていない県下市町村が実施する発掘調査などに対して、職員を派遣し、支援を行った。

（１）災害復旧に伴う智頭往来志戸坂峠越確認調査

市町村名：英田郡西粟倉村

遺 跡 名：智頭往来志戸坂峠越　　所 在 地：英田郡西粟倉村坂根518-4ほか

調査期間：令和３年10月25日～11月８日　　調査面積：10㎡

担 当 者：和田　剛　　調査成果：近代の道路、石垣

（２）町道泉・田ヶ原線新築に伴う発掘調査

市町村名：和気郡和気町

遺 跡 名：藤野遺跡　　所 在 地：和気郡和気町藤野486-2ほか

調査期間：令和４年１月20日～３月29日　　調査面積：502㎡

担 当 者：松尾佳子（センター兼務）　　調査成果：古墳時代の集落、古代の官衙関連遺跡

第７節　専門職員研修等

埋蔵文化財専門職員の資質向上のため、所内研修を開催した。また、奈良文化財研究所文化財担当者専門研修、文化庁主催埋蔵文化財担当職員講習会を受講した。なお、市町村職員を含む専門職員研修会については、令和３年度は新型コロナ感染症対策のため中止した。

（１）所内研修

日　時	内　容	講　師
令和３年９月30日(木)	第1回発掘調査状況報告	各調査担当者
令和３年９月30日(木)	文化財行政におけるフォトグラメトリの活用	調査第二課　四田寛人
令和３年10月29日(金)	デジタル技術の導入について	デジタル化検討委員会
令和３年11月25日(木)・26日(金)	こうもり塚古墳発掘調査視察研修 保存目的調査の方法と調査成果	調査第一課　金田善敬
令和３年11月30日(火)	発掘調査報告書作成	報告書作成検討委員会
令和４年２月28日(月)	第2回発掘調査状況報告	各調査担当者

（２）奈良文化財研究所文化財担当者研修受講

期　間	内　容	受講者
令和３年９月27日～10月１日	遺跡調査技術課程	調査第二課　西村　奏
令和３年11月22日～12月３日	文化財写真課程	調査第二課　藤井雅大

（３）埋蔵文化財担当職員等講習会受講

文化庁主催の令和3年度埋蔵文化財担当職員等講習会を受講した。なお、令和３年度は新型コロナ感染症対策のため、オンライン受講とした。

	日　時	受　講　者
第１回	令和３年８月25日(水)・26日(木)	調査第一課　金田善敬、團　奈歩、山口香織、和田　剛 調査第二課　樋口英行
第２回	令和４年２月２日(水)・３日(木)	調査第二課　四田寛人、西村　奏

第８節　調査指導会等

（１）埋蔵文化財保護調査指導会

発掘調査及び報告書作成を適切かつ円滑に進めるとともに、その成果・内容についての客観性を確保するため、大学教官等県内の有識者に委員を委嘱し、埋蔵文化財調査指導会を設け、指導助言を得た。令和３年度は４事業において開催した。なお、本指導会は文化財課が主催した。

１　一般国道53号（津山南道路）改築工事に伴う埋蔵文化財保護調査指導会

委　　員：澤田秀実（くらしき作陽大学）、清家　章（岡山大学）、仁木康治（津山市）、
　　南健太郎（岡山大学埋蔵文化財調査研究センター）
開 催 日：令和３年８月６日(金)、令和４年２月８日(火)
協議事項：発掘調査状況、報告書作成状況

２　一般国道２号（玉島・笠岡道路）改築工事に伴う埋蔵文化財保護調査指導会

委　　員：岩崎志保（岡山大学埋蔵文化財調査研究センター）、富岡直人（岡山理科大学）、
　　新納　泉（元岡山大学）、間壁葭子（元倉敷考古館）、光本　順（岡山大学）
開 催 日：令和３年９月27日(月)
協議事項：報告書作成状況

３　一般国道374号（美作岡山道路）改築工事に伴う埋蔵文化財保護調査指導会

委　　員：白石　純（岡山理科大学）、平岡正宏（津山市）、湊　哲夫（元津山郷土博物館）、
　　山本悦世（岡山大学埋蔵文化財調査研究センター）、行田裕美（元津山市教育委員会）
開 催 日：令和３年９月29日(水)、令和４年１月24日(月)
協議事項：発掘調査状況

４　小田川合流点付替え事業に伴う埋蔵文化財保護調査指導会

委　　員：稲田孝司（元岡山大学）、出宮徳尚（元岡山市教育委員会）、
　　野崎貴博（岡山大学埋蔵文化財調査研究センター）、福本　明（岡山商科大学）、
　　森　俊弘（真庭市教育委員会）
開 催 日：令和３年10月７日(木)
協議事項：報告書作成状況

調査指導会（一般国道53号）

調査指導会（一般国道374号）

（２）埋蔵文化財専門委員による現地指導

発掘調査等を円滑に進めるとともに、その成果・内容についての客観性を確保するため、文化財課が有識者に委員を委嘱し、指導助言を得た。

委　　員：亀田修一（岡山理科大学）、山本悦世（岡山大学埋蔵文化財調査研究センター）

指 導 日：令和４年２月９日（水）

指導事項：特別名勝岡山後楽園二色が岡景観復元事業に伴う確認調査状況

（３）史跡こうもり塚古墳調査指導会

「吉備路の歴史遺産」魅力発信事業として、史跡こうもり塚古墳の発掘調査、総合調査報告書作成を適切かつ円滑に進めるとともに、その成果・内容についての客観性を確保するため、有識者に委員を委嘱し、指導助言を得た。

委　　員：亀田　修一（岡山理科大学）
　　清家　　章（岡山大学）
　　土生田純之（専修大学）

オブザーバー：浅野　啓介（文化庁）
　　川畑　　純（文化庁）
　　河合　　忍（県文化財課）

開　催　日：令和３年６月４日（金）、11月12日（金）、
　　令和４年２月３日（木）

調査指導会現地指導

第９節　古代歴史文化に関する共同調査研究事業

古代歴史文化にゆかりの深い県が互いに連携して、各県が集積してきた考古学及び古代史の研究成果を基礎に、共同調査研究することによって、個々地域的な研究だけでは見えにくかった日本の大きな古代史の流れを解明することを狙いとし、14県が平成26年11月に古代歴史文化協議会を設立した。令和元年度～４年度は「古墳時代の刀剣類」をテーマに研究を進めている。

１　構成県

埼玉県・石川県・福井県・三重県・奈良県・兵庫県・和歌山県・鳥取県・島根県・岡山県・広島県・福岡県・佐賀県・宮崎県

２　共同調査研究集会

第18回研究集会　令和３年７月６日（火）～８日（木）
　　島根県出雲市（オンライン参加）
第19回研究集会　令和４年１月18日（火）～20日（木）
　　佐賀県佐賀市

３　古代歴史文化講演会

第５回　刀剣が語る古墳時代の幕開け

基調講演：広域交流の重層性
　　－１～３世紀の東アジア・日本列島－
　　講師　石川日出志（明治大学）

講演会収録の様子

パネルディスカッション：鳥取県、石川県、福岡県、岡山県（調査第三課石田爲成）、福井県

＊岡山県立美術館ホールにて令和３年12月15日収録。令和４年３月７日からオンライン配信。

４　展覧会・成果図書準備

令和４年度開催予定展覧会と刊行に向けた準備を行った。

第10節　労働安全衛生

（１）安全衛生委員会

発掘調査現場や施設内での各種作業等における職員の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進することを目的にセンター内に安全衛生員会を設置し、年間12回の安全衛生委員会を開催した。

令和３年度は､「暑さ指数」に基づいた新しい熱中症予防対策と調査現場へのクローラーダンプ導入に伴い、「埋蔵文化財発掘調査等の安全衛生基準」の改正を行った。

１　委員会の構成と重点目標

委員長（総括安全衛生管理者)、副委員長（総括安全衛生管理者職務代理者)、産業医、
安全管理者、衛生管理者、その他委員　計19名

重点目標：『労災ゼロ』

標　　語：『あわてず　ゆとりを持って　事故防止』

２　安全衛生研修

第１回　令和３年４月30日(金)
　　ビデオ視聴「見直そう！あなたの生活習慣」

第２回　令和３年10月29日(金)
　　交通安全対策「車両感覚と死角の理解」公用車実技研修

第３回　令和３年12月17日(金)
　　救命講習「応急手当及び救命救急法の基礎知識の習得について」 講師：岡山西消防署

３　各現場研修

調査現場及び整理作業におけるヒヤリハット運動とその報告

４　安全衛生管理状況現場巡視

職員相互による巡視を行い、調査現場の安全衛生管理状況について確認した。巡視結果と改善点については、安全衛生員会で報告し、情報共有を図った。

	期　日	調査現場遺跡	重点項目
第1回	令和３年５月７日(金)	百間川原尾島遺跡	風 雨 対 策　　現場通路の安全対策
第2回	令和３年７月２日(金)	高尾北ヤシキ遺跡	
第3回	令和３年７月６日(火)	城田遺跡	熱 中 症 対 策　　現場通路の安全対策
第4回	令和３年10月４日(月)	こうもり塚古墳	火 災 予 防　　現場通路の安全対策
第5回	令和３年11月４日(木)	南方遺跡	
第6回	令和４年１月12日(水)	高尾北ヤシキ遺跡	降雪・霜対策　　現場通路の安全対策
第7回	令和４年１月18日(火)	城田遺跡	

（２）各種資格取得・受講

第一種安全衛生管理者：多賀総括主幹　四田主事　藤井(雅)主事

職長教育受講：氏平総括副参事

有機溶剤作業主任者：藤井(翔)主任

ドローン検定３級：四田主事　藤井(雅)主事

＊参考　令和3年度以前の取得・受講

①安全衛生管理者
第一種：大橋所長　亀山参事　小林(利)総括副参事　團副参事　和田主幹　金田総括副参事　藤井(翔)主任　澤山第二課長　米田総括主幹　小嶋総括副参事　弘田第三課長　渡邉総括副参事　岡本副参事　氏平総括副参事　物部副参事　石田主幹　　第二種：髙田総括参事
②安全管理者選任時研修受講
大橋所長　亀山参事　髙田総括参事　澤山第二課長　弘田第三課長
③職長教育受講
小嶋総括副参事　米田総括副参事　渡邉総括副参事　物部副参事
④地山掘削作業主任者
大橋所長　亀山参事　髙田総括参事　小林(利)総括副参事　團副参事　和田主幹　金田総括副参事　藤井(翔)主任　澤山第二課長　米田総括主幹　小嶋総括副参事　弘田第三課長　渡邉総括副参事　岡本副参事　氏平総括副参事　物部副参事　石田主幹
⑤有機溶剤作業主任者
小林(利)総括副参事　和田主幹　金田総括副参事　小嶋総括副参事　渡邉総括副参事　氏平総括副参事　物部副参事　石田主幹
⑥自由研削といし取替え等の特別教育受講
大橋所長　亀山参事　髙田総括参事　小林(利)総括副参事　團副参事　和田主幹　金田総括副参事　藤井(翔)主任　澤山第二課長　米田総括主幹　小嶋総括副参事　藤井(雅)主事　弘田第三課長　渡邉総括副参事　岡本副参事　氏平総括副参事　物部副参事　石田主幹
⑦足場組み立て作業主任者
金田総括副参事
⑧ドローン検定３級
多賀総括主幹　藤井(翔)主任　岡本副参事　氏平総括副参事

第11節　施設等の修繕

令和3年度に実施した施設等の修繕は、次のとおりである。

	場　所	内　　容
1	本館１階	男子トイレ洋式化
2	本館展示室	展示ガラスケースコーキング補修
3	本館展示室	展示ケースドア新設
4	本館展示室	照明配線ダクト取替え
5	本館調査員室	ドア付け替え
6	本館１、２階階段室	壁塗装
7	児童学習室	窓ガラス修繕
8	児童学習室	電源増設
9	児童学習室	白蟻防除
10	収蔵棟	縦樋付け替え
11	車庫	電動シャッター、モーター、ローラーチェーン交換
12	敷地内	樹木伐採
13	三手収蔵庫	屋根雨漏り修繕

第12節　文化財保護法に基づく提出書類

（１）史跡の現状変更許可申請（法第125条）

番号	申請文書番号 日付	史跡名	所在地	目的	申請者	期間	指示の内容	許可文書番号
1	都計第101号 令和3年5月10日	特別名勝 岡山後楽園及び 史跡岡山城跡	岡山市北区 後楽園1-5	発掘調査	岡山県知事	許可日～ 令和4年3月31日	実施に当たっては、岡山市文化財担当部局の指導を受けること。	３文庁第389号 令和3年6月18日
2	教文埋第359号 令和3年6月11日	史跡 こうもり塚古墳	総社市上林 1236-1ほか	発掘調査	岡山県教育委員会 教育長	許可日～ 令和3年12月28日	実施に当たっては、岡山県文化財担当部局の指導を受けること。	３文庁第655号 令和3年7月16日
3	岡吉調第73号 令和3年9月10日	史跡 津島遺跡	岡山市北区 いずみ町1-1	津島遺跡やよいまつりのためテントを設置	岡山県古代吉備文化財センター 所長	令和3年10月22日 ～10月25日	施工に際しては、岡山市文化財担当部局の指導を受けること。	岡山市教育委員会 指令文第613-1号 令和3年9月16日
4	都計第379号 令和3年11月12日	特別名勝 岡山後楽園及び 史跡岡山城跡	岡山市北区 後楽園1-5	発掘調査、廉池軒東茅葺屋根葺替工事	岡山県知事	許可日～ 令和4年3月31日	実施に当たっては、岡山市文化財担当部局の指導を受けること。	３文庁第1982号 令和3年12月17日

（２）埋蔵文化財試掘確認調査の報告（法第99条）

番号	文書番号 日付	周知／ 未周知	遺跡名称 時代・種類	所在地	面積 （㎡）	原因事業	包蔵地 有無	報告者	担当者	調査期間
1	岡吉調第43号 令和3年7月7日	周知	酒津遺跡 弥生時代～中世 集落跡	倉敷市酒津 地内	2,500	高梁川河川整備	無	岡山県古代吉備文化財センター 所長	小林利晴	令和3年5月10日 ～6月11日
2	岡吉調第61号 令和3年８月10日	周知	高尾宮ノ前遺跡 弥生～古墳時代 中世 集落跡	津山市高尾 815ほか	52	一般国道53号 （津山南道路）改築	有	岡山県古代吉備文化財センター 所長	團奈歩	令和3年6月21日 ～6月25日
3	岡吉調第124号 令和4年1月17日	未周知	（こうもり塚古墳周辺） 古墳～平安時代 古墳・散布地	総社市上林 1171ほか	67.9	「吉備路の歴史遺産」 魅力発信事業	有	岡山県古代吉備文化財センター 所長	金田善敬 藤井翔平 小林有紀子	令和3年9月1日 ～12月24日

（３）埋蔵文化財発掘調査の報告（法第99条）

番号	文書番号 日付	遺跡名称 時代・種類	所在地	面積 （㎡）	原因事業	報告者	担当者	期間
1	岡吉調第3号 令和3年4月1日	高尾北ヤシキ遺跡、 高尾宮ノ前遺跡 弥生時代～中世 集落跡	津山市高尾1423 ほか	4,725	一般国道53号 （津山南道路）改築	岡山県古代吉備 文化財センター所長	米田克彦 樋口英行 四田寛人 西村奏	令和3年4月1日 ～令和4年3月31日
2	岡吉調第4号 令和3年4月1日	百間川原尾島遺跡 縄文時代～近世 集落跡	岡山市中区 藤原光町	495	警察本部宿舎建替整備	岡山県古代吉備 文化財センター所長	渡邉恵里子 藤井雅大 山口香織	令和3年4月1日 ～6月30日
3	岡吉調第5号 令和3年4月1日	大林遺跡、城田遺跡 弥生時代、中～近世 集落跡、その他の墓	美作市城田384 ほか	2,800	国道374号 （美作岡山道路）改築	岡山県古代吉備 文化財センター所長	岡本泰典 北門幸二郎	令和3年4月1日 ～令和4年3月31日
4	岡吉調第88号 令和3年8月2日	南方遺跡 弥生～古墳時代、近世 集落跡、武家屋敷跡	岡山市北区南方 一丁目3-58	1,310	岡山地方法務局 本局庁舎新営	岡山県古代吉備 文化財センター所長	氏平昭則 下祐一朗	令和3年8月2日 ～令和4年2月28日

（４）埋蔵文化財発見の通知（法第100条第2項）

番号	文書番号 日付	物件名	出土地 遺跡名称	出土年月日	発見者	土地所有者	現保管場所	発見の理由
1	教文埋第480号 令和3年6月18日	弥生土器・土師器・瓦質土器ほか 計整理箱1箱	倉敷市酒津地先 酒津遺跡	令和3年5月10日～6月11日	岡山県教育委員会 教育長	国土交通省	岡山県古代吉備文化財センター	高梁川河川整備に伴う確認調査
2	教文埋第515号 令和3年7月5日	弥生土器・土師器・須恵器・石器・鉄器・土製品・木製品・鉄滓・動植物遺存体　計整理箱21箱	岡山市中区藤原光町 百間川原尾島遺跡	令和3年4月6日～6月30日	岡山県教育委員会 教育長	岡山県	岡山県古代吉備文化財センター	警察本部宿舎建替整備事業に伴う発掘調査
3	教文埋第671号 令和3年7月18日	陶磁器・鉄釘ほか 計整理箱1箱	岡山市北区後楽園1-5 特別名勝岡山後楽園 史跡岡山城跡	令和3年7月12日～7月16日	岡山県教育委員会 教育長	岡山県	岡山県古代吉備文化財センター	岡山後楽園東広場有効活用策検討事業に伴う確認調査
4	教文埋第1510号 令和3年12月28日	土師器・須恵器・陶磁器・瓦・鉄斧　計整理箱3箱	総社市上林1236-1ほか こうもり塚古墳	令和3年9月1日～12月24日	岡山県教育委員会 教育長	岡山県	岡山県古代吉備文化財センター	「吉備路の歴史遺産」魅力発信事業に伴う発掘調査
5	教文埋第1510号 令和4年1月25日	⑴桑山古墳群 土器（弥生土器、須恵器、土師器）、土製品（埴輪）、金属製品（鉄刀、鉄鏃、刀子、石突）、玉類、鉄滓、人骨ほか 計整理箱51箱 ⑵桑山南古墳群 土器（弥生土器、須恵器、土師器）、土製品（埴輪、陶棺）、金属製品（鉄刀、鉄鏃、刀子、鉄鐸、鉄釘）、玉類、人骨ほか　計整理箱37箱 ⑶高尾北ヤシキ遺跡 土器（弥生土器、須恵器）、鉄滓ほか 計整理箱1箱	⑴津山市平福666ほか 桑山古墳群 ⑵津山市平福1582ほか 桑山南古墳群 ⑶津山市平福1423ほか 高尾北ヤシキ遺跡	平成31年4月8日～令和2年3月13日	岡山県教育委員会 教育長	国土交通省	岡山県古代吉備文化財センター	一般国道53号（津山南道路）改築工事に伴う発掘調査
6	教文埋第1698号 令和4年2月3日	大林遺跡：陶磁器ほか 計整理箱1箱 城田遺跡：弥生土器・鉄滓・炉壁・陶磁器・銅銭・鉄器ほか 計整理箱14箱	美作市城田394-1ほか 大林遺跡 美作市城田5-1ほか 城田遺跡	令和3年4月8日～令和4年1月27日	岡山県教育委員会 教育長	岡山県	岡山県古代吉備文化財センター	一般国道374号（美作岡山道路）改築工事に伴う発掘調査
7	教文埋第1760号 令和4年2月15日	土師器・須恵器・陶磁器・瓦・鉄製品 計整理箱1箱	岡山市北区後楽園1-5 特別名勝岡山後楽園 史跡岡山城跡	令和4年2月1日～2月10日	岡山県教育委員会 教育長	岡山県	岡山県古代吉備文化財センター	特別名勝岡山後楽園二色が岡景観復元事業に伴う確認調査
8	教文埋第1797号 令和4年2月22日	弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・瓦・石器・鉄器・木製品 計整理箱42箱	岡山市北区南方一丁目3番58号 南方遺跡	令和3年8月1日～令和4年2月18日	岡山県教育委員会 教育長	法務省	岡山県古代吉備文化財センター	岡山地方法務局本局庁舎新営に伴う発掘調査
9	教文埋第1943号 令和4年3月16日	土器・陶磁器（弥生土器、土師器、須恵器、勝間田焼、備前焼、青磁、白磁）、陶棺、瓦、石製品、鉄製品、青銅製品、玉類、鉄滓、銅滓ほか 計整理箱132箱	津山市高尾1423ほか 高尾北ヤシキ遺跡 津山市高尾790 高尾宮ノ前遺跡	令和3年4月12日～令和4年3月15日	岡山県教育委員会 教育長	国土交通省 津山市	岡山県古代吉備文化財センター	一般国道53号（津山南道路）改築工事に伴う発掘調査
10	教文埋第73号 令和4年4月8日	弥生土器・土師器・須恵器・備前焼・銭貨 計整理箱1箱	津山市高尾815ほか 高尾宮ノ前遺跡	令和3年6月21日～6月25日	岡山県教育委員会 教育長	国土交通省	岡山県古代吉備文化財センター	一般国道53号（津山南道路）改築工事に伴う確認調査

第４章　調査の概要

第１節　確認調査概要

（１）高梁川河川整備事業に伴う確認調査

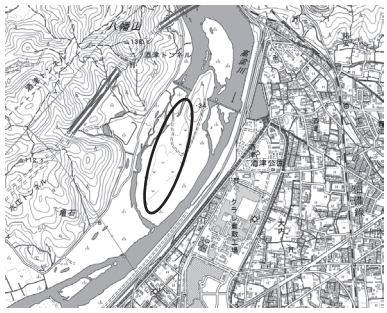
酒津遺跡（さかづいせき）

所 在 地：倉敷市酒津地内　　調査期間：令和３年５月10日～６月11日

担 当 者：小林利晴　　調査面積：2,500㎡

調査の経過

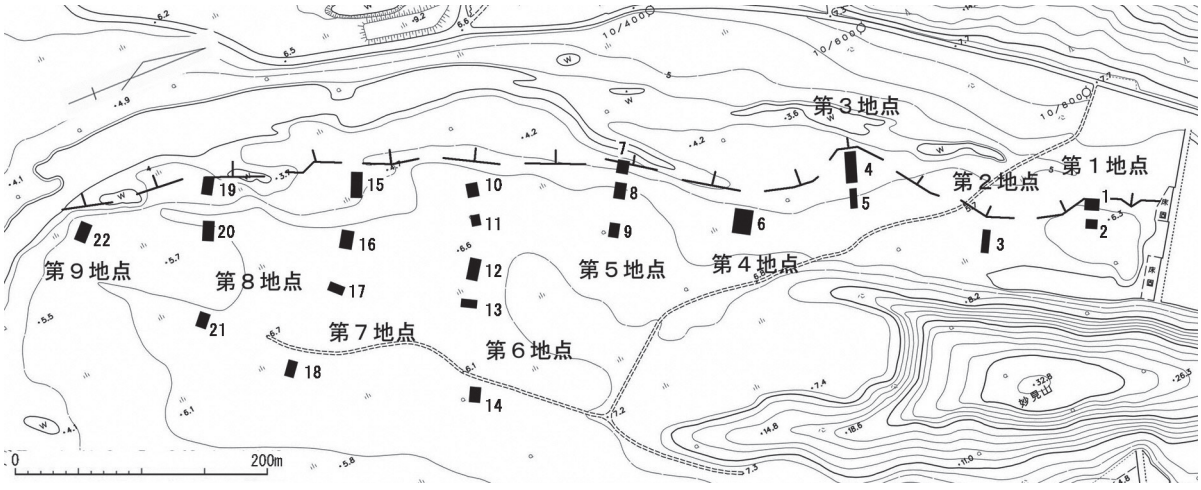
高梁川河川整備事業に伴い、酒津地内を南北およそ800ｍにわたり確認調査を実施した。調査地点は、高梁川河川敷内にあたり、妙見山と呼ばれる高まりの西から南側にかけてに位置する。調査は約100ｍ間隔の９地点に調査区を設定して実施した。



調査位置図（1/50,000）

調査の概要

調査区の大半は現在の河道もしくは河川敷である。ほぼ全ての地点で、現存標高は中央部が高く、東西両側が低い。高い箇所の堆積は、昭和・平成期と近代以前の分厚い砂層であり、それらの直下に黄褐色基盤層が存在する。低い箇所では、砂層は共通するものの黄褐色基盤層がなく、暗褐色シルト層を確認した。これらの堆積層は河川作用に由来するもので、遺構はどの箇所でも検出できなかった。このことから、妙見山の西から南側にかけては古くから中洲状に高所部と低位部が存在したが、幾度かの河川作用によって高所も低位部も現在のように埋没したものと考えられる。なお第４地点と第６地点の最下層で弥生土器片と中世土器片が少量出土したが、いずれも河川作用由来の堆積土中であり、遺物包含層は検出できなかった。第６・７・８地点の最東端となるＴ14・Ｔ18・Ｔ21では、黒褐色粘質微砂層直下の標高2.5ｍ付近に黄褐色粘質微砂層があり、古くからの基盤層と考える。基盤層直上の黒褐色粘質微砂層は、遺物が出土せず河道または湿地の下層と判断した。　（小林利）



トレンチ配置図（1/6,000）

（２）一般国道53号（津山南道路）改築工事に伴う確認調査

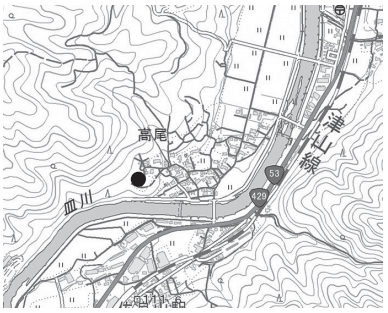
高尾宮ノ前遺跡（たかおみやのまえいせき）

所 在 地：津山市高尾815ほか　　調査期間：令和３年６月21日～25日

担 当 者：圍　奈歩　　調査面積：52㎡

調査の経過

高尾宮ノ前遺跡は、嵯峨山から南東に派生する丘陵端の、南に皿川を臨む立地となる。平成29年度に確認調査を行い、中世の遺構が広がることを確認した。今回、北西側の遺構の広がりと残存状況を確認するため、５本のトレンチを設定し、調査を行った。



調査位置図（1/25,000）

調査の概要

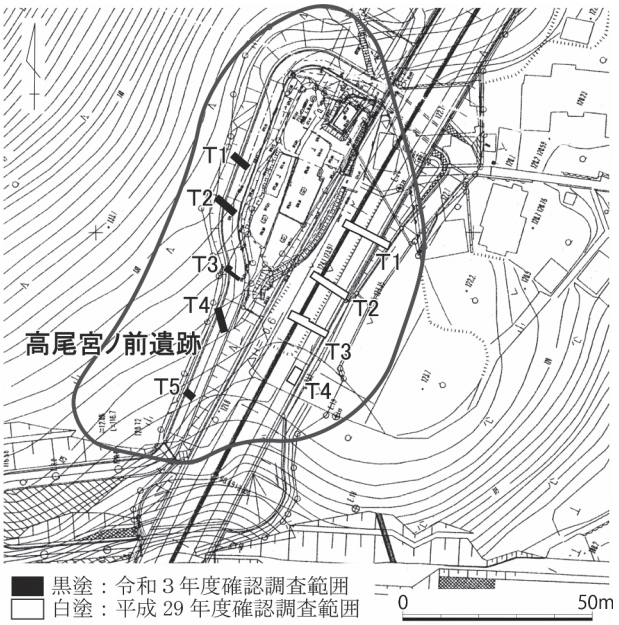
Ｔ１～Ｔ４で、弥生時代から中世にかけての遺構を確認した。Ｔ５は地山まで大きく削平を受けており、遺構・遺物ともに確認していない。Ｔ２は遺構・遺物ともに比較的多くみられるが、Ｔ１とＴ３の地形の改変がみられる箇所では、遺構・遺物ともに希薄な状況であった。

Ｔ１では、西端で土坑１基と柱穴１本を検出した。調査区東側の大半は削平を受けているが、現状で見られる平坦面の造成に伴うものと考えられる。遺構には伴わないが、弥生土器や土師器が出土した。Ｔ２では、箱式石棺１基と柱穴５本を検出した。箱式石棺の残存状況が良いことから、旧地形をよく留めていると考えられる。また遺構に伴わないが、弥生土器・土師器・須恵器が出土している。

Ｔ３では、２本の柱穴とトレンチ断面の２か所で遺構を検出している。柱穴から鉄釘と考えられる鉄器が出土したほか、遺構に伴わない遺物として土師器や鉄滓がある。全体が地山までの削平を受けている。遺構に伴わない遺物に、弥生土器・土師器のほか、14世紀代の備前焼の壺と擂鉢がある。

Ｔ４は、Ｔ１・Ｔ２と比べて標高が７～８ｍほど低い、標高122ｍ付近に位置する。平成29年度確認調査成果からも、丘陵裾部の低い位置に中世の遺構が広がるものと考えられる。Ｔ５は、地山まで及ぶ削平と、盛土による造成を確認した。現状は果樹園であり、この造成に伴うものと考えられる。遺構・遺物ともに確認していない。（圍）

箱式石棺検出状況（東から）



トレンチ配置図（1/2,000）

（３）特別名勝岡山後楽園東広場有効活用策検討事業に伴う確認調査

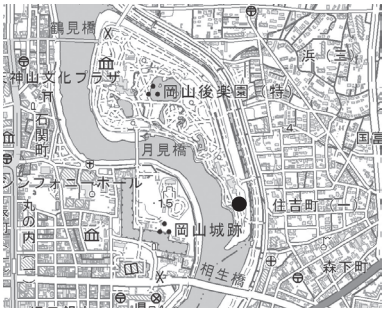
特別名勝岡山後楽園・史跡岡山城跡

所 在 地：岡山市北区後楽園１－５　　調査期間：令和３年７月12日～16日

担 当 者：團　奈歩・山口香織・下　祐一朗　　調査面積：36㎡

調査の経過

岡山後楽園南端に所在する東広場は、昭和39年に整備され、平成16年に閉鎖された観光温室が位置した場所で、現在は東屋等が整備されている。この場所の活用策を検討するにあたり、令和２年度に４本のトレンチを設けて確認調査を行ったところ、江戸期の園路を確認した。しかし建物基礎により大きく壊されていた箇所もみられたことから、園路の残存状況を確認するために、さらに２か所にトレンチ（Ｔ５・Ｔ６）を設けて調査を行った。



調査位置図（1/25,000）

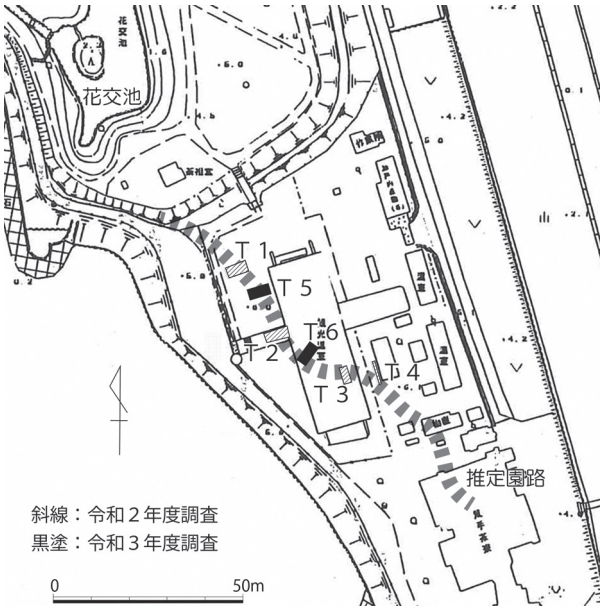
調査の概要

昨年度に引き続き、享保元（1716）年の「御茶屋御絵図」に描かれた園路に直交するように２か所にトレンチを設定した。調査の結果、Ｔ５の標高5.1ｍ付近で、18世紀代の洪水砂に覆われた江戸期の園路と考えられる遺構を確認した。Ｔ６では築庭以前の溝、もしくは流路と考えられる遺構を検出した。遺構上面の高まりが園路であった可能性がある。

Ｔ５は、観光温室に関連する攪乱を受けていたが、標高5.15ｍ付近で洪水由来の堆積層を確認した。その下層の標高5.1ｍ付近で褐灰色粘性微砂の旧表土に覆われる礫混じりの黄褐色微砂層は、幅約２ｍ、高さ約10㎝の高まりを呈していた。これは、令和２年度のＴ１で検出した江戸期の園路と同様の状況であり、黄褐色微砂層が園路路盤と考えられる。園路路盤と基盤層には明瞭な差は見られず、基盤層を盛り上げて造作する状況を追認した。

Ｔ６は、観光温室の基礎などにより、大きく攪乱を受けていたが、標高5.5ｍ付近で洪水由来の堆積層を確認した。この下層のシルト層を主体とした堆積は、厚さ70㎝以上を測り、溝または流路の状況を示している。時期を示す遺物は出土していないが、絵図に描かれていないことからも、築庭以前のものと考えられる。この遺構の上面は、標高5.2ｍ付近を頂点として、幅約２ｍ、高さ約15㎝程度の高まりを呈している。このような状況は、洪水時の水流により抉られた自然作用によるもの､もしくは園路として造作したものと、２つの可能性が考えられる｡園路であるならば、高まりの上面の標高が10㎝程度高いことや、礫を伴わない点などが異なるものの、絵図から推定される園路の位置と大きな隔たりはない。

（團）



トレンチ配置図（1/2,000）

（４）特別名勝岡山後楽園二色が岡景観復元事業に伴う確認調査

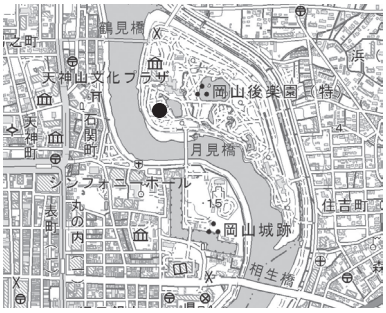
特別名勝岡山後楽園（おかやまこうらくえん）・史跡岡山城跡（しせきおかやまじょうあと）

所 在 地：岡山市北区後楽園１－５　　調査期間：令和４年２月１日～10日

担 当 者：圃　奈歩　　調査面積：7.5㎡

調査の経過

特別名勝岡山後楽園の南西に位置する二色が岡の景観復元事業に伴う確認調査は、平成30年度、令和元・２年度に続き、４か所のトレンチを設定して実施した。



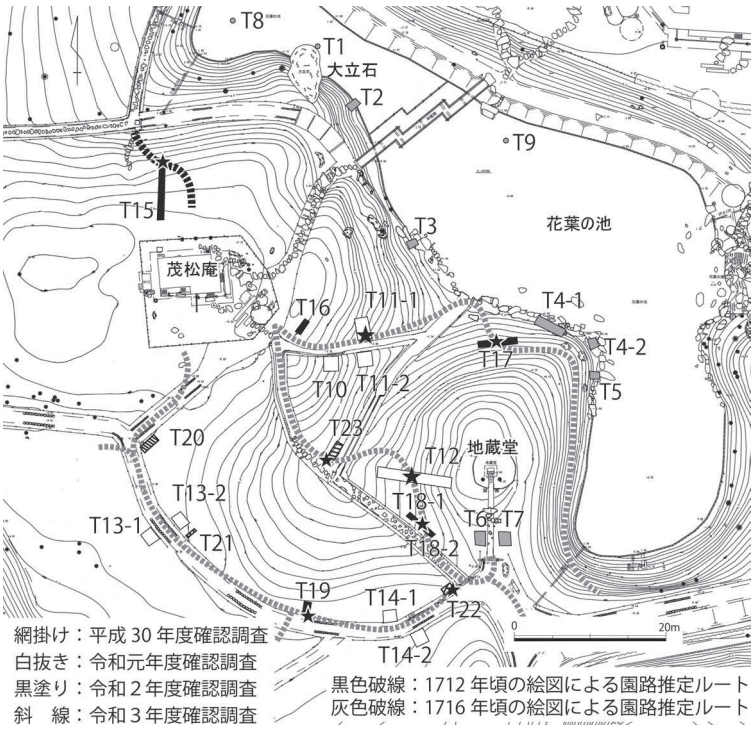
調査位置図（1/25,000）

調査の概要

Ｔ20・Ｔ21で、江戸期と考えられる厚さ約40～60㎝の盛土による平地造成を確認した。Ｔ22・Ｔ23で確認した礫を多く含む土層は、絵図に描かれる園路の位置や方向と符合し、江戸期の園路路盤と考えられ、令和元・２年度の調査成果とも合致する。

Ｔ20では、茂松庵の南側の平地部分で厚さ約40～60㎝の盛土を確認した。この盛土によって平地にする造成が行われている。出土遺物はなく時期については不明であるものの、令和２年度にＴ15・Ｔ16で確認された造成と同じく、築庭当初のものと考えられる。Ｔ21でも厚さ約40㎝の盛土を確認した。Ｔ20・Ｔ21の盛土上面の標高は5.4ｍ前後とおおむね一致することから、四天王堂北側から茂松庵周辺の平地を造成した可能性が考えられる。

Ｔ22では、表土直下で直径0.5～２㎝大の礫を多く含む厚さ10㎝の土層を確認した。北東－南西方向へ延び、江戸期の園路路盤と判断した。南東側を現園路によって大きく削平され、北西端部分にあたる幅0.8ｍの検出にとどまった。Ｔ23では、トレンチの南西端の表土直下で、幅0.9ｍの範囲で直径１～２㎝大の礫を含む厚さ約15～20㎝の土層を確認した。東西方向へ延び、江戸期の園路路盤に相当すると考えられる。正徳２(1712)年頃の「御後園地割御絵図」や享保元（1716）年頃の「御茶屋御絵図」に描かれた、地蔵堂から茂松庵へ曲がりながら続く園路の位置・方向と符合する。また江戸期の園路とは離れた位置で、径1.4ｍ、深さ0.4ｍ程度の大型土坑と、それに切られる遺構を確認した。大型土坑は遺物がなく時期は不明だが、それに切られる遺構から中世前期の遺物が出土した。本事業に伴う調査で初めて確認した築庭以前の遺構である。　（圃）



トレンチ配置図（1/1,000）（★印で園路を検出）

第２節　発掘調査概要

（１）一般国道374号（美作岡山道路）改築工事に伴う発掘調査

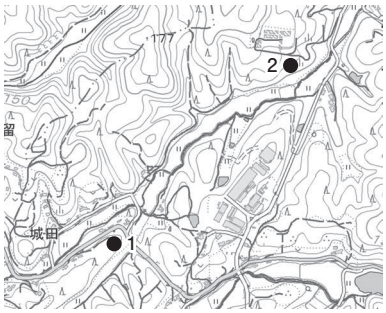
大林遺跡（おおばやしいせき）・城田遺跡（じょうでんいせき）

所 在 地：美作市城田５－１ほか　　調査期間：令和３年４月１日～令和４年１月31日

担 当 者：岡本泰典・北門幸二郎　　調査面積：3,800㎡（大林遺跡200㎡　城田遺跡3,600㎡）

調査の経過

大林遺跡・城田遺跡は、美作市南西部の城田地区に所在する。大林遺跡では、令和２年度調査区に隣接する200㎡の範囲を対象として調査を行った。城田遺跡では、令和２年度の確認調査の結果を受けて調査区を設けたほか、その周辺にトレンチを設定し、合計3,600㎡の範囲について調査を行った。



1　大林遺跡　2　城田遺跡

調査位置図（1/25,000）

調査の概要

大林遺跡は、南西から北東に派生する丘陵尾根上に立地し、前年度の調査では、中世末から近世初頭の火葬墓を伴う塚や、近世の土坑墓群が検出されていた。今年度の調査では、新たに確認された遺構は方形の土坑１基のみであったが、前年度調査区の近世墓に形態・規模が類似することから、同じく近世墓の可能性が想定される。

城田遺跡は、谷筋に面する丘陵の南東向き斜面上に立地する。遺構密度は希薄であったが、弥生時代から近世に至る遺構を検出した。弥生時代の遺構には段状遺構２基と土坑１基があり、いずれも出土した土器から中期後葉に比定される。住居の検出はなかったものの、居住地の存在を示唆する成果といえる。古墳時代後期ないし古代に属する遺構としては、横口付製炭窯１基を検出した。全長約9.2ｍ、幅約70㎝の窯体に７か所の横口が付属し、山側に排水溝を伴う構造である。この種の窯は製鉄との関連が指摘されており、今回確認された１基の周囲からも鉄滓・炉壁片が出土していることから、付近に製鉄炉の存在も想定されたが、調査区内においては確認できなかった。その他の遺構として、近世墓１基と時期不明の土坑数基がある。なお調査区南端部の谷筋においてトレンチ調査を実施し、遺構は検出できなかったものの流土内から弥生土器片が出土したことから、用地外にこの時期の遺跡が広がる可能性がある。（北門・岡本）

城田遺跡　弥生時代中期の土坑（南から）

城田遺跡　横口付製炭窯（東から）

（２）一般国道53号（津山南道路）改築工事に伴う発掘調査
高尾北ヤシキ遺跡・高尾宮ノ前遺跡

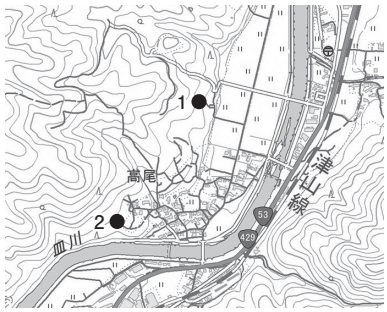
所 在 地：津山市高尾1423ほか　　調査期間：令和３年４月１日～令和４年３月31日

担 当 者：米田克彦・樋口英行・四田寛人・山口香織・西村　奏

調査面積：4,175㎡（高尾北ヤシキ遺跡4,025㎡　高尾宮ノ前遺跡150㎡）

調査の経過

昨年度に引き続き、４月から一般国道53号（津山南道路）改築工事に伴う発掘調査を実施した。今年度は高尾北ヤシキ遺跡、高尾宮ノ前遺跡の調査を行った。



1：高尾北ヤシキ遺跡
2：高尾宮ノ前遺跡

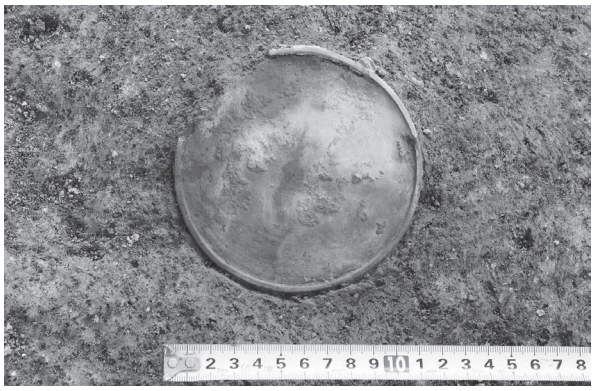
調査位置図（1/25,000）

調査の概要

高尾北ヤシキ遺跡では、今年度の調査対象地において弥生時代の段状遺構２基、木棺墓１基、古墳時代後期の竪穴住居16軒、段状遺構16基、土坑墓１基、鎌倉～室町時代の掘立柱建物22棟、段状遺構24基、土坑20基、溝６条、集石２基、柱穴列６列、柱穴などを確認した。調査地中央の谷部では弥生時代、古墳時代後期、中世の遺構がまとまって見つかった。また、調査地南半の斜面上方では鎌倉～室町時代の造成面を４面確認した。各造成面では複数の掘立柱建物や段状遺構が繰り返し建て替えられている。調査地南端では古墳時代後期の竪穴住居８軒を検出した。これらの住居群にも重複が認められるが、出土土器はいずれも６世紀後半頃に位置づけられることから、短い期間内で建て替えが行われたとみられる。注目すべき遺物として、鎌倉～室町時代の造成面北端に位置する段状遺構に伴うピットから出土した円形の青銅製品がある。青銅製品は直径約11.2㎝で細い縁をもつ。表面には現状では彫像や線刻は認められないが、釣手をもつことから鏡像の可能性が考えられる。その他の遺物として、弥生時代から室町時代の土器・陶磁器、陶棺、瓦、石製品、鉄製品、玉類、鉄滓、銅滓などが認められた。

高尾宮ノ前遺跡は遺跡の西端を調査した。調査地は南向きの斜面地にあたり、斜面の上方で時期不明の溝１条、土坑１基を検出したほか、中央と下方で段状遺構２面を確認した。中央の段状遺構では弥生時代中期の壺・甕などの土器類が出土した。　（四田）

高尾北ヤシキ遺跡の全景（南西上空から）



青銅製品の出土状況（南から）

（３）岡山地方法務局本局庁舎新営に伴う発掘調査

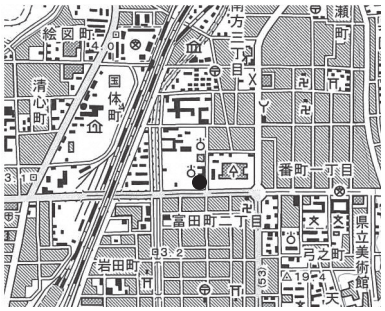
南方遺跡（みなみかたいせき）

所 在 地：岡山市北区南方１－３－58　　調査期間：令和３年８月２日～令和４年２月28日

担 当 者：氏平昭則・下　祐一朗　　調査面積：1,310㎡

調査の経過

岡山地方法務局本局庁舎新営に伴い、南方遺跡の発掘調査を実施した。南方遺跡は主に弥生時代中期の拠点集落として著名な遺跡であり、今回の調査地の東側で実施した平成16・22年度の過去の調査では、武家屋敷の跡地や弥生時代から古墳時代にかけての集落遺構を確認している。

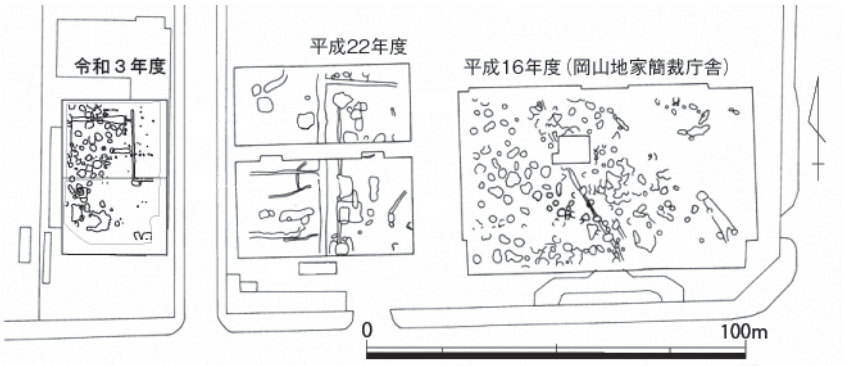


調査位置図（1/25,000）

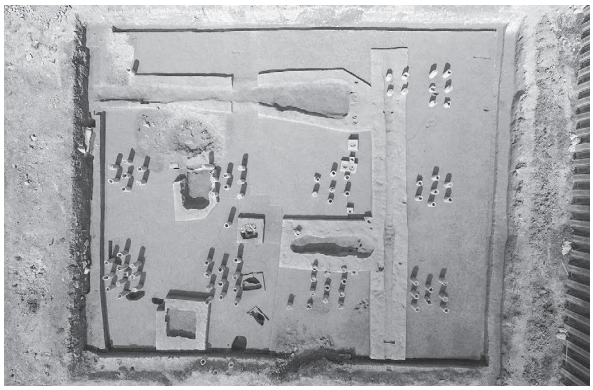
調査の概要

弥生時代の遺構としては、土坑49基を検出した。土坑は調査区の西側に集中しており、平面が楕円形で、断面形が袋状を呈するものが多く、埋められた土は、土坑の基盤となった複数の層が混ざり合った状態であった。土坑内からは弥生時代後期の土器の他、木製の鋤が１点出土している。これらの土坑は、形状・規模と配置が平成16年度の調査で233基検出された弥生時代後期の土坑群に類似している。

江戸時代の遺構としては、溝３条、井戸２基、土坑12基を検出した。溝は東西、南北にそれぞれ直線状に伸びており、そのうち東側を南北に通る溝は調査区の中央付近で東へ曲がっている。江戸時代の絵図によると、調査地は平成22年度の調査と同じく屋敷地の範囲にあたり、検出された溝や土坑はそれに伴う遺構と考えられる。また、土坑内からは陶磁器や瓦片が多く出土した。井戸２基はいずれも井側基底部に桶を使用している。（下）



調査区配置図（1/2,000）


調査区北半　江戸時代遺構全景（上が北）

弥生時代の土坑断面（北西から）

（４）警察本部宿舎建替整備事業に伴う発掘調査

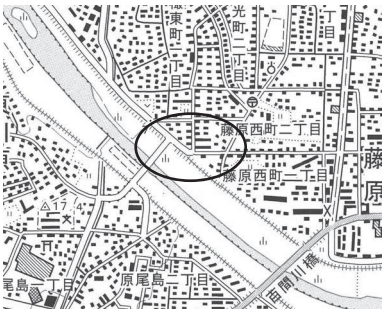
百間川原尾島遺跡（ひゃっけんがわはらおじまいせき）

所 在 地：岡山市中区藤原光町地内　　調査期間：令和３年４月１日～６月30日

担 当 者：渡邉恵里子・藤井雅大・山口香織　　調査面積：495㎡

調査の経過

警察本部宿舎建替整備事業に伴い、百間川原尾島遺跡の発掘調査を実施した。対象地のおよそ東半部（１区）については前年度に調査を終えており、今年度は残る西半部（２区）の調査を行い、事業地内の全ての調査を完了した。



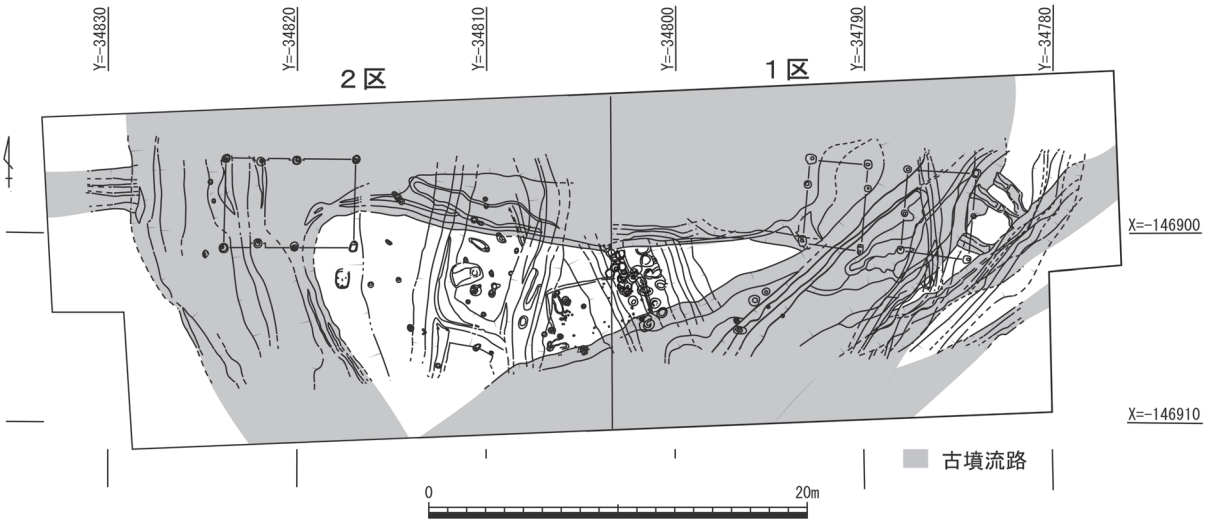
調査位置図（1/25,000）

調査の概要

調査地は百間川の左岸堤防を越えた北東側に位置している。前年度の調査で縄文時代から中世に至る遺構や遺物が確認されており、かつて河川敷内で行われた旭川放水路改修に伴う発掘調査で確認された集落が当地点まで広がっていたと想定される。

検出した主な遺構は、東半部（１区）で見つかった古墳時代後期の竪穴住居及び大溝の続きのほか、弥生時代の土坑１基、柱穴列３列、溝５条、古墳時代後期の溝６条、中世以降の掘立柱建物１棟、近世の土坑１基、たわみ２か所などである。調査地の大半部には古墳時代の流路が様々な方向に幾筋も走っており、竪穴住居はこれら流路の間に島状に取り残された微高地上に立地していた。竪穴住居は、南半を削平されているが、東西長約5.4ｍの方形で、西辺のほぼ中央にカマドを造り付けていることが明らかとなった。また、古墳時代の遺構面の約40㎝下（標高約3.2ｍ）で弥生時代中期～後期の遺構面を確認した。

一方、掘立柱建物は、古墳時代の流路の埋没後に一帯が平旦化され、古代～近世に耕作地として利用された間に営まれたようである。掘立柱建物の南東で見つかった土坑からは近世の瓦が出土しており、掘立柱建物も近世に降る可能性が考えられる。（渡邉）



主要遺構検出状況（１区：令和２年度調査、２区：令和３年度調査）(1/4,000)

第３節 「吉備路の歴史遺産」魅力発信事業

史跡こうもり塚古墳保存活用総合調査

担当者：金田善敬・藤井翔平・小林有紀子

１ 事業の経緯

「吉備路風土記の丘」として広く親しまれている総社市南東部から岡山市西部にかけての一帯は、全国的にも著名な遺跡が数多く分布する地域である。こうもり塚古墳は、古墳時代後期に築かれた大型前方後円墳で、県内最大の横穴式石室をもつ吉備中枢の大首長墓であることから、昭和43年に国史跡に指定されている。

調査位置図（1/25,000）

令和元年度に県教育委員会が策定した『岡山県文化財保存活用大綱』では、県が所有するこの史跡を将来にわたり保存し、幅広く有効に活用する必要性について言及した。古代吉備文化財センターでは、「吉備路の歴史遺産」魅力発信事業として、令和２年度から３か年計画で、こうもり塚古墳の過去の発掘調査の再整理を含めた総合調査を企画し、令和２年度に「史跡こうもり塚古墳保存活用計画」を策定した。令和３年度には、発掘調査・整理作業と公開活用事業を実施した。

２ 事業の概要

発掘調査

史跡こうもり塚古墳は、これまでに昭和42年・昭和53年に横穴式石室の発掘調査が実施されている。本年度は墳丘斜面に計６か所のトレンチを設定し、墳丘の規模や構造、外表施設の有無及び外縁部の形状把握を目的に発掘調査を実施した。調査は令和３年９月１日から12月24日まで行い、調査面積は225.7㎡である。

今回の調査によって、墳丘は二段築成で、埴輪や葺石などの外表施設は伴わないこと、残存墳長は約97ｍであることが明らかになった。墳丘については、前方部上段は土を盛り、下段は元の地形を削り出して成形していることが確認された。また、後円部の少なくとも西側から北側にかけては、古墳築造前に溝を設け、上段築造後、その溝を埋め戻しながら下段を造成していた。特に、後円部の石室上面の盛り土は、異なる土を互層に積み上げながら堅固に構築されていた。さらに、古墳周辺には幅数十ｍにわたって外縁部が設けられていた可能性があることが判明した。

公開活用事業

ＳＴＥＡＭ教育の一環としてＶＲを研究テーマに取り組んでいる県立岡山工業高等学校と連携し、令和２年度に作成した史跡こうもり塚古墳の横穴式石室のＶＲ映像を古代吉備文化財センター内で公開した。また、史跡こうもり塚古墳の発掘調査成果を県民に伝えるため、現地説明会を実施するとともに、古墳の魅力を分かりやすく伝えるため、パンフレット『国指定史跡こうもり塚古墳』の刊行・一般配布・WEB公開と360°動画の作成を行った。さらに、吉備路の一角にある史跡造山古墳とその陪塚群でウォーキングイベント「吉備路ウォーク」を開催した。（小林有）

現地説明会の様子

埋蔵文化財発掘調査報告

津　島　遺　跡

岡山武道館練習道場建替工事に伴う発掘調査

例　言

1　本報告は、岡山武道館練習道場建替工事に伴い、岡山県教育委員会が岡山県環境文化部スポーツ振興課の依頼を受け、岡山県古代吉備文化財センター（以下、文化財センター）が実施した、津島遺跡の発掘調査報告である。

2　発掘調査を実施した津島遺跡は、岡山市北区いずみ町２－１ほかに所在する。

3　確認調査は令和２年度に岡本泰典が担当し、調査面積は30㎡である。本発掘調査は同年度に同じく岡本が担当し、調査面積は490㎡である。

4　本報告の作成は、令和４年度に岡本が担当し、文化財センターにて実施した。

5　本報告の執筆は、第２章第１節を柴田英樹、その他を岡本が担当し、文責は章及び節、各項目の末尾に示した。全体の編集は岡本が行った。

6　遺物写真の撮影については、江尻泰幸の協力と援助を得た。

7　本報告に収載した遺構・遺物の図面・写真等、出土遺物は岡山県古代吉備文化財センター（岡山市北区西花尻1325－３）に保管している。

凡　例

1　本報告に記載した高度は、海抜高である。

2　本報告で用いるグリッドの座標値は世界測地系に準拠し、各遺構図の方位は平面直角座標第５系の座標北である。

3　各遺構・遺物実測図の縮尺は個々に明記した。

4　遺物番号は、土器は番号のみとし、石器類には番号の前にＳの略号を付した。

5　土器実測図の中軸線左右の白抜きは、小破片のため口径復元に不確実性があることを示す。

6　土層断面図の土色は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修）に準拠した。

7　本報告に掲載した第２図の周辺遺跡分布図は、国土地理院発行の1/25,000地形図「岡山北部」・「岡山南部」を複製・加筆したものである。

8　本報告に掲載した図版１－１の岡山県総合グラウンド航空写真は、岡山県公聴広報課から提供を受けたものである。

9　本報告書で用いる時代区分は、一般的な政治史区分に準拠し、それを補うために文化史区分や世紀を併用した。

目　　次

例　言

凡　例

目　次

第１章　地理的・歴史的環境……43

第２章　調査の経緯と経過……45

第１節　調査にいたる経緯……45

第２節　発掘調査の経過……46

第３節　発掘調査の体制……47

第３章　調査の成果……48

第１節　調査区の概要……48

第２節　遺構・遺物……50

第３節　小結……51

遺物観察表

報告書抄録

図版

図 目 次

第１図　遺跡の位置（1/2,000,000）……43
第２図　周辺遺跡分布図（1/50,000）……44
第３図　岡山県総合グラウンド内発掘調査区配置図（1/6,000）……45
第４図　武道館周辺調査区配置図（1/1,200）……47
第５図　調査区全体図（1/400）……49
第６図　調査区西壁土層断面（縦1/100・横1/250）……49
第７図　溝１（1/100・1/30）・出土遺物（1/4）……50
第８図　その他の遺物（1/4・1/2）……51

表 目 次

表１　文化財保護法に基づく文書一覧……48
表２　遺物観察表……52

写 真 目 次

写真１　焼夷弾着弾痕の検出状況（南西から）…50
写真２　焼夷弾着弾痕の断面（東から）……50

図 版 目 次

図版１
　１　岡山県総合グラウンド全景（北東上空から）
　２　１区全景（南から）
図版２
　１　１区全景（南西から）
　２　溝１（西から）
　３　溝１断面（西から）
図版３
　１　１区西壁土層断面（南東から）
　２　２区全景（南西から）
　３　２区西壁土層断面（北東から）
図版４
　１　溝１出土遺物
　２　その他の出土遺物
　３　焼夷弾

第１章　地理的・歴史的環境

津島遺跡は、岡山県岡山市北区いずみ町の岡山県総合グラウンドを中心に広がる、弥生時代前期から近世までの複合遺跡である。地形的には、旭川西岸に形成された沖積平野上に立地しており、北側に半田山、西側に京山の丘陵が隣接している。周囲の平野は遺跡の密集地帯であり、その多くは複雑に分岐していた旭川の旧流路を反映して、北東から南西に延びる形状を呈する。

旧石器時代には陸地であった津島遺跡周辺は、いわゆる縄文海進によっていったんは海面下に没し、海進最大時の縄文時代前期には、半田山丘陵の裾近くまで海岸線が入り込んでいた。その後、旭川による沖積作用の進行に、近世以降は干拓事業も加わって、現在の岡山平野が形成されることとなる。

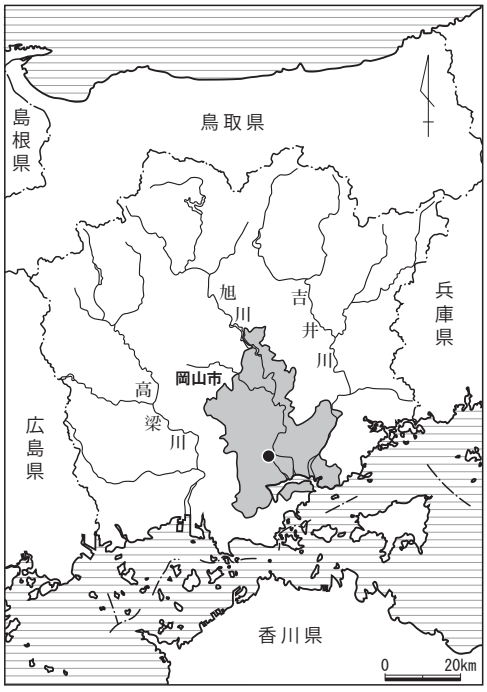
縄文時代前期以降、半田山丘陵南麓の津島岡大遺跡や朝寝鼻貝塚遺跡において人の活動が始まる。後期に至ると津島岡大遺跡で炉や貯蔵穴が確認されるなど、沖積平野の拡大に伴い生活領域も徐々に拡大していった様子がうかがえる。津島遺跡でも後期及び晩期の土器が少量出土しているが、定住にまで至ったかは不明である。

弥生時代前期に入ると、微高地縁辺の低位部で本格的な稲作が開始される。この時期の水田は、津島遺跡をはじめ、近隣の津島江道遺跡・津島岡大遺跡・北方遺跡群などで広範囲に確認されている。これらの水田は、津島遺跡周辺に広く分布する黒色土（湿地環境で形成された、有機物に富む土壌）を基盤として、畦畔による区画や整備された用排水路を伴っている。また、津島遺跡では小規模ながら同時期の集落が確認されている。

弥生時代中期には、沖積作用の進展に伴い、津島遺跡より南側に居住域が拡大していく。特に南方遺跡においては、多数の竪穴住居や土坑墓などが検出されたほか、多量の精巧な木製品や他地域産の土器も出土しており、木製品の生産や交易を担った大規模集落と考えられる。津島遺跡でも、南東部においてこの時期の遺構が確認されている。

弥生時代後期に入ると、集落域はさらに拡大し、この時期の遺構は津島遺跡をはじめ周辺の遺跡では普遍的に検出される。津島遺跡では多数の竪穴住居が検出され、旧河道からの多量の木製品の出土が注目された。また、津島遺跡の南約３㎞に位置し、当時の海岸線に近い鹿田遺跡では、多数の製塩土器の出土から、製塩を生業のひとつとする集落が営まれたと考えられる。

弥生時代後期末から古墳時代前期になると、周辺の丘陵上に墳丘墓や古墳の築造が開始される。半田山に築かれた都月坂２号墳丘墓に始まり、七つ**坊**古墳群、都月坂１号墳、京山の津倉古墳などの前期古墳が続く。平野部では津島遺跡の北東に所在する神宮寺山古墳が特筆される存在で、全長は約150ｍを測り、竪穴式石室から100点を超える鉄器が出土し注目される。中期古墳としては半田山の一本松古墳などがあるが少なく、後期に至ると目



第１図　遺跡の位置（1/2,000,000）

立った古墳は築かれなくなる。集落については弥生時代後期から連続して営まれたものが多く、鉄器生産に関与した津島江道遺跡などが特徴的である。

古代以降には、津島遺跡一帯の大部分は耕作地として推移する。古代の条里関連と思われる区画用の溝が津島遺跡や周辺の遺跡で検出されている。近世に入り、岡山城と城下町が建設された後も、耕作地としての役割は変わることはなかったと思われる。近代に入ると、明治40年（1907）に陸軍第17師団の設置に伴い、津島遺跡一帯は大規模な造成により陸軍練兵場へと変貌を遂げる。戦後の昭和23年（1948）には津島運動公園に決定され、以後は公園として整備され現在に至っている。　（岡本）

主要参考文献

岡山県古代吉備文化財センター編「津島遺跡１～７」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』 137・151・160・173・181・190・212　岡山県教育委員会　1999・2000・2001・2003・2004・2005・2007

1	津島遺跡	8	上伊福西遺跡ほか	15	広瀬遺跡	22	一本松古墳群
2	津島岡大遺跡	9	伊福定国前遺跡	16	七つ塊古墳群	23	妙見山城跡
3	津島東遺跡	10	絵図遺跡	17	烏山城跡	24	三野宮ノ段遺跡
4	朝寝鼻貝塚	11	北方下沼遺跡ほか	18	都月坂古墳群	25	北方長田遺跡
5	津島新野遺跡	12	上伊福遺跡	19	半田山城跡	26	神宮寺山古墳
6	津島江道遺跡	13	上伊福（立花）遺跡	20	津島福居遺跡	27	岡山城跡
7	津倉古墳	14	南方遺跡ほか	21	ダイミ山古墳	28	岡山後楽園

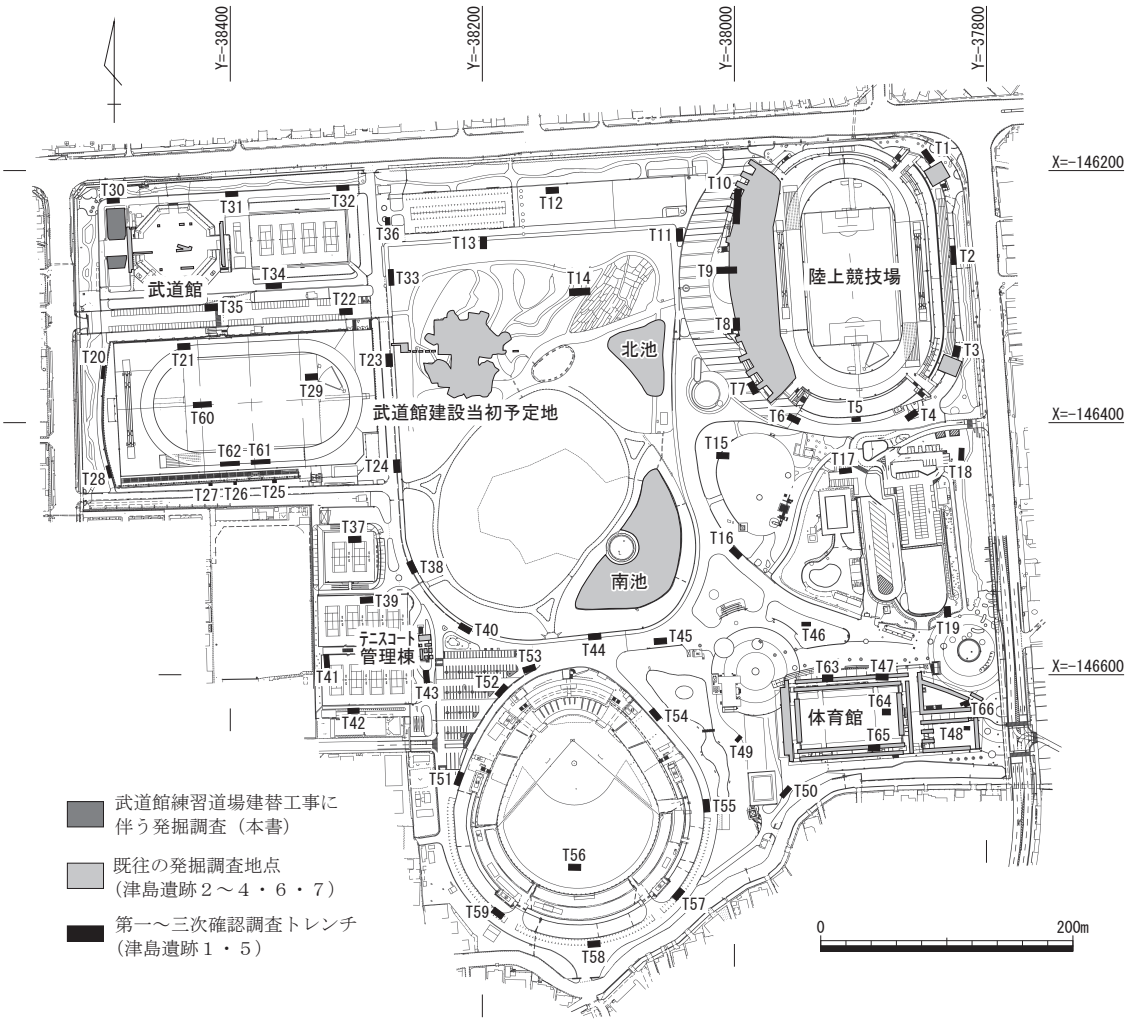
第２図　周辺遺跡分布図（1/50,000）

第２章　調査の経緯と経過

第１節　調査にいたる経緯

岡山県総合グラウンド（岡山市北区いずみ町２－１ほか）に所在する岡山武道館練習道場（以下、練習道場）は、昭和45年竣工の平屋建て建物で、岡山武道館の西に併設する施設であった。岡山県環境文化部スポーツ振興課（以下、県スポーツ振興課）では、岡山武道館の整備計画を検討しており、また平成29年３月に岡山県は耐震診断の結果、練習道場の耐震性がないことを公表した。その後、県スポーツ振興課では、練習道場の老朽化及び耐震化のために施設更新を検討することになり、平成30年８月に岡山県教育庁文化財課（以下、県文化財課）にその可否について協議を求めてきた。

県文化財課としては、昭和43年の武道館建設や平成17年度国民体育大会主会場関連の文化財保護に関する経緯を考慮し、可能な限り面積を拡大せず、また遺跡への影響が軽微になる方法を検討することと、掘削を伴う更新が決まった場合には、文化財保護法第94条の規定に基づく埋蔵文化財発掘の通知が必要であることを伝えた。９月に県文化財課は、岡山県文化財保護審議会委員や岡山県遺跡保護



第３図　岡山県総合グラウンド内発掘調査区配置図（1/6,000）

調査団委員長等有識者に本案への意見を求めながら、県スポーツ振興課と協議を重ねた。

平成30年11月、岡山県は県公共施設マネジメント方針に基づいて練習道場の建替を発表し、翌年１月に示された計画は、令和２年１～３月で既存建物を撤去し、早ければ４月から建替を始めて令和３年秋に完成というものであった。それに対して県文化財課は、遺跡への影響が軽微になる方法を検討すること、実施設計の内容によっては確認調査が必要であること、その結果本発掘調査が必要になることもあることをあらためて説明した。令和元年６月には県スポーツ振興課から、練習道場を世界基準に適合させるには動線確保のために西側を幅２ｍ広げて通路を設置する必要があると申し出があり、県文化財課としては、その部分の基礎が深さ50㎝の掘削で地中梁とすることからやむを得ないと判断した。なお、この時点で本体部分の基礎については調査検討中であった。

令和元年11月、ボーリング調査の結果、県スポーツ振興課では、本体の基礎をパイル工法にせざるを得ない結論に至ったことから、県文化財課は12月、再度有識者に設計内容を説明し、まずは確認調査で対応し、重要遺構が出た場合は保存協議を行うことで理解を得た。

確認調査は、令和２年４月14～21日に、建物中央の地下貯水槽を挟んで２本のトレンチを設定して実施し、北側のみで遺構を検出したことから、県文化財課では貯水槽以北を中心に記録保存の措置を講じることとした。これに伴い県スポーツ振興課は事業期間を変更し、また令和２年６月３日付けで埋蔵文化財発掘の通知を提出し、発掘調査の勧告を受けた。県文化財課は、県スポーツ振興課に対して発掘調査に関する条件整備等を依頼し、令和２年８月24日から発掘調査に着手した。　（柴田）

第２節　発掘調査の経過

確認調査の結果を受けて、令和２年８月24日から11月10日まで発掘調査を実施した。調査は文化財センター調査第三課職員１名が従事し、調査第一課・第三課職員の応援を受けた。調査区は、貯水槽の北側を１区、南側を２区と命名し、１区から調査に着手した。

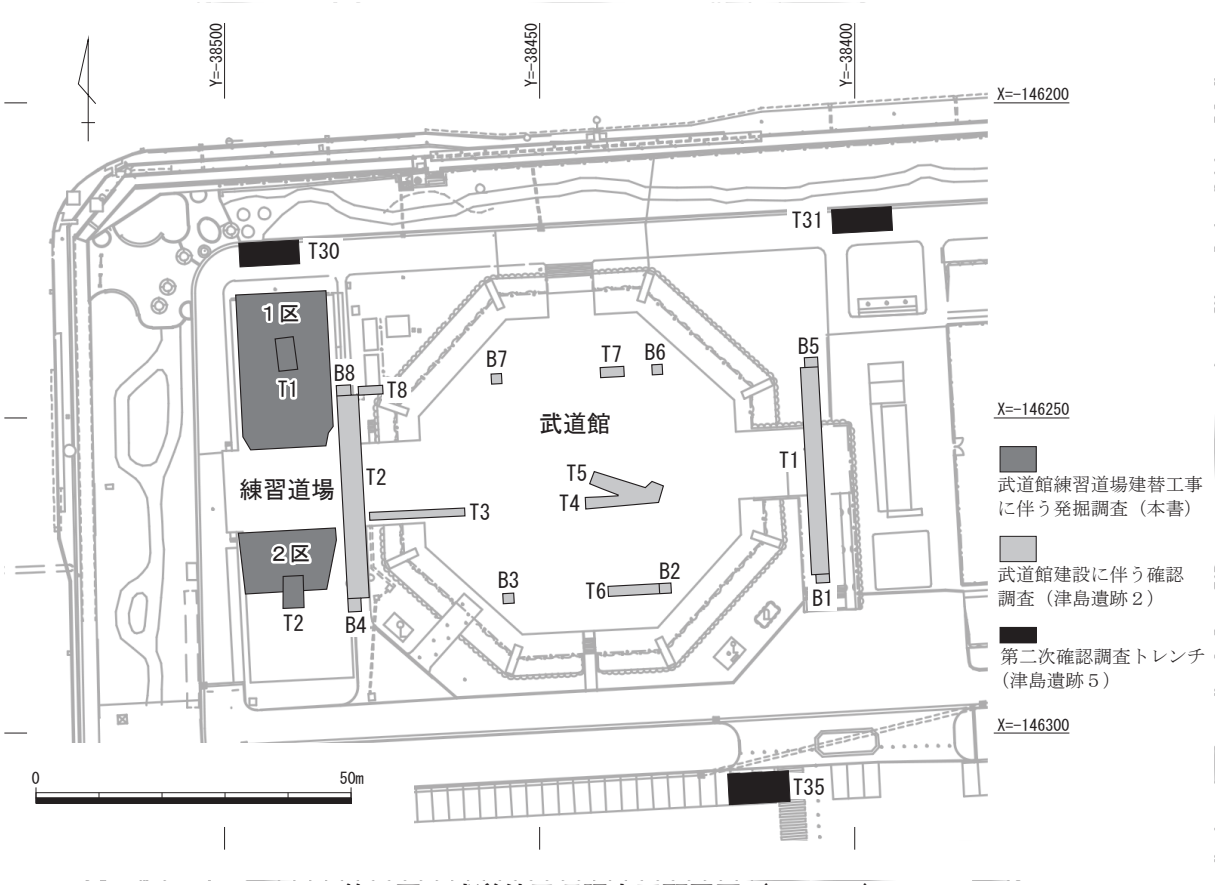
掘削作業は、地表から深さ約１ｍまでの造成土や近代水田層等を重機で除去し、中近世の層以下は人力により実施した。人力掘削は土層単位のほか､厚さ10㎝ないし５㎝単位の人為的な区分も併用し、１面ごとに遺構検出を行った。遺構図面の作成は、平面直角座標系第５系に準拠した測量杭を基準として、トータルステーションで取得した座標値を方眼紙に転記する手作業で行った。

結果的に、遺構は確認調査時にＴ１で検出されていた古墳時代前期の溝１条のみであった。これを受け、１区においては下層遺構の確認を目的として、面的な調査の終了後に北壁及び西壁沿いにトレンチを設定し、最深で海抜約0.7ｍまで深掘りを行った。その結果、還元色を呈する微砂混じりのシルト層を確認し、弥生時代において本地点は河道ないし低湿地のような環境下にあり、集落などは存在しなかったと結論づけた。また、貯水槽の位置には条里制に基づく郷境の東西溝の存在が想定されていたが、今回の調査では検出されなかった。11月10日にすべての作業を終え、資材を撤収した。

調査期間中の9月17日には岡山理科大学学生34名の現場見学、９月23日から29日には、帝京科学大学の博物館実習生１名を受け入れた。

調査区内から出土した岡山空襲時の焼夷弾については、猪原千恵（岡山市福祉援護課岡山空襲展示室)、山本達也（四日市市教育委員会）　の両氏からご教示をいただいた。

報告書の作成は、令和４年度に調査第三課職員１名が担当して行った。　（岡本）



第４図　武道館周辺調査区配置図（1/1,200）

第３節　発掘調査の体制

令和２年度

岡山県教育委員会

教 育 長	鍵本　芳明

岡山県教育庁

教育次長	髙見　英樹

文化財課

課　　長	小林　伸明
参　　事（文化財保存・活用担当）	大橋　雅也
総括参事（埋蔵文化財班長）	柴田　英樹
主　　幹	河合　　忍
主　　事	九冨　　一

岡山県古代吉備文化財センター

所　　長	小見山　晃
次　　長	佐々木雅之（～10/14）
参　　事（文化財保護担当）	亀山　行雄
〈総務課〉	
課長事務取扱	佐々木雅之（～10/14）
課　　長	甲元　秀和（10/15～）
総括副参事（総務班長）	甲元　秀和（～10/14）
総括主任（総務班長）	多賀　克仁（10/15～）
主　　任	多賀　克仁（～10/14）
主　　任	井上　裕子
〈調査第一課〉	
総括参事（第一課長事務取扱）	髙田恭一郎
総括副参事（第一班長）	小林　利晴
主　　幹	團　　奈歩
主　　幹	和田　　剛
〈調査第三課〉	
課　　長	弘田　和司
総括副参事（第二班長）	物部　茂樹
副 参 事	岡本　泰典（調査担当）

表１　文化財保護法に基づく文書一覧

埋蔵文化財発掘の通知（法第94条）

番号	文書番号 日付	遺跡の名称 時代・種類	所在地	目的	通知者	通知日	主な勧告事項
1	教文埋第727号 令和元年８月７日	津島遺跡 弥生～中世 散布地、集落跡	岡山市北区いずみ町	その他建物 (武道場)	岡山県知事	令和元年８月７日	工事立会
2	教文埋第1216号 令和元年11月１日	津島遺跡 弥生～中世 散布地、集落跡	岡山市北区いずみ町	その他建物 (武道場)	岡山県知事	令和元年10月31日	工事立会
3	教文埋第360号 令和２年６月５日	津島遺跡 弥生～近世　集落跡	岡山市北区いずみ町	その他建物 (武道館練習道場)	岡山県知事	令和２年６月３日	発掘調査

埋蔵文化財試掘・確認調査の報告

番号	文書番号 日付	周知・ 周知外	種類及び名称	所在地	面積 (㎡)	原因	包蔵地の 有無	報告者	調査期間
1	岡吉調第57号 令和２年４月24日	周知	集落跡 津島遺跡	岡山市北区 いずみ町	30	武道館練習道場建替	有	岡山県古代吉備 文化財センター所長	令和２年４月14日 ～４月21日

埋蔵文化財発掘調査の報告（法第99条）

番号	文書番号 日付	遺跡の名称 時代・種類	所在地	面積 (㎡)	原因	報告者	担当者	調査期間
1	岡吉調第32号 令和２年８月24日	津島遺跡 弥生～中世　集落跡	岡山市北区 いずみ町	480	武道館練習道場建替	岡山県古代吉備 文化財センター所長	岡本泰典	令和２年８月24日 ～11月30日

埋蔵文化財発見通知（法第100条第２項）

番号	文書番号 日付	物件名	出土地・名称 時代・種類	出土年月日	発見者	土地所有者	現保管場所
1	教文埋第172号 令和２年４月24日	弥生土器・陶器ほか 計　整理箱１箱	岡山市北区いずみ町 津島遺跡 弥生～近世　集落跡	令和２年４月14日 ～４月21日	岡山県教育委員会 教育長	財務省	岡山県古代吉備 文化財センター
2	教文埋第1180号 令和２年11月11日	弥生土器・須恵器・ 土師器ほか 計　整理箱１箱	岡山市北区いずみ町 津島遺跡 弥生～近世　集落跡	令和２年８月24日 ～11月10日	岡山県教育委員会 教育長	財務省	岡山県古代吉備 文化財センター

第３章　調査の成果

第１節　調査区の概要

今回の調査区は、岡山県総合グラウンドの北西隅にあたり、津島遺跡自体としても北西端に位置し、もともと遺跡の縁辺部と考えられてきた地点である。昭和45年に、岡山武道館が当初の予定地（現在の津島やよい広場内）から位置を変更して本地点に建設される以前には、テニスコートとして利用されていた。周辺ではこれまでに、武道館建設に伴う確認調査で条里制に基づく東西方向の区画溝、総合グラウンド第二次確認調査のＴ30で溝１条が検出されている。

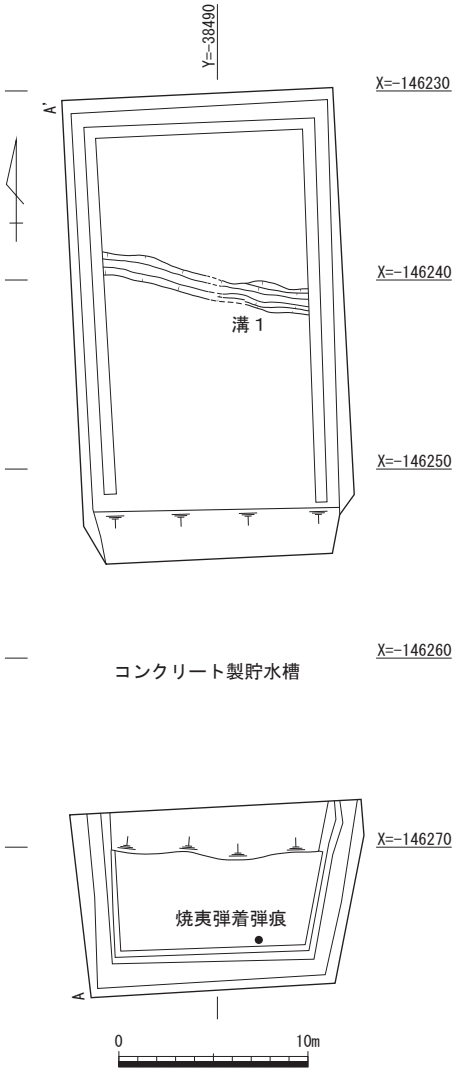
前述のとおり、調査区は確認調査の結果に基づき、既存のコンクリート製貯水槽の北側に１区、南側に２区を設定した。面積は、１区が351㎡、２区が139㎡、合計490㎡である。

調査区の基本層序として、１・２区西壁の通し断面を第６図に示す。第１層はプラスチックゴミ等を含んでおり、戦後の公園整備に伴う造成土と考えられる。第２層は花崗岩質の真砂土で、明治40年の練兵場造成に伴う造成土であり、総合グラウンド内で広く確認される。地点によっては１ｍ近くの厚さがあるが、本地点で最大30㎝程度である。第４層は、練兵場造成前まで営まれていた水田層であり、その直上の第３層は洪水による堆積とみられる微砂である。第５～11層は黄灰色系のシルト～微

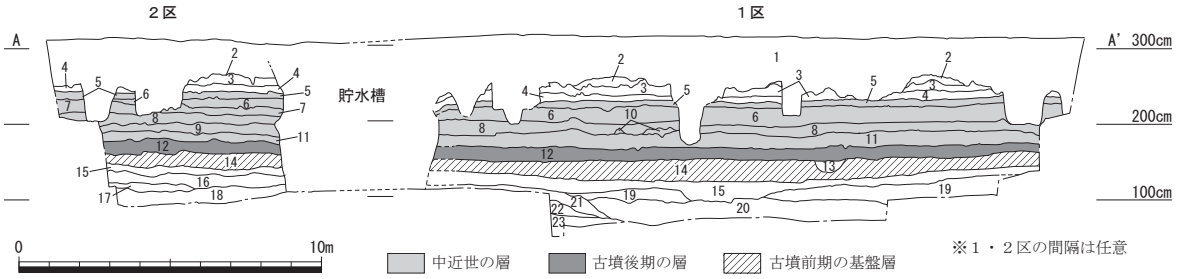
砂層で、わずかな出土遺物からみて中世から近世の堆積層である。鉄分やマンガンの沈着した層が多く、おおむね水田として推移したと考えられる。第12層は、黒褐色を呈するシルト層で、色調は津島遺跡内に広く分布する弥生前期水田層と近似していたが、須恵器片などが出土したことから古墳時代後期の堆積と判断した。第14層は古墳時代前期の遺構面の基盤層であり、上面の海抜高は1.6～1.7ｍである。遺構面上では１区で溝１条（第13層）を検出した。第15層以下は、基本的に還元色を呈し、植物遺体を包含する微砂～シルト層であり、河道ないし低湿地の堆積物と考えられ、弥生前期水田層が存在しないことを確認した。

なお本地点で想定された条里制の東西溝は、精査にもかかわらず平面的にも土層断面でも検出できなかった。過去の調査成果を参照すると、本地点における東西溝はちょうど１・２区間のコンクリート製貯水槽の位置に相当することから、貯水槽の設置により失われたものと判断した。

以上のことから、本地点は弥生時代後期まではおおむね河道ないし低湿地の環境下にあり、古墳時代前期に至って地形が安定し若干の利用はなされたたものの、集落は営まれなかったと考えられる。古代以降は、総合グラウンド内の他地点と同様に、耕作地としての利用が近代まで続いたようである。（岡本）



第５図　調査区全体図（1/400）



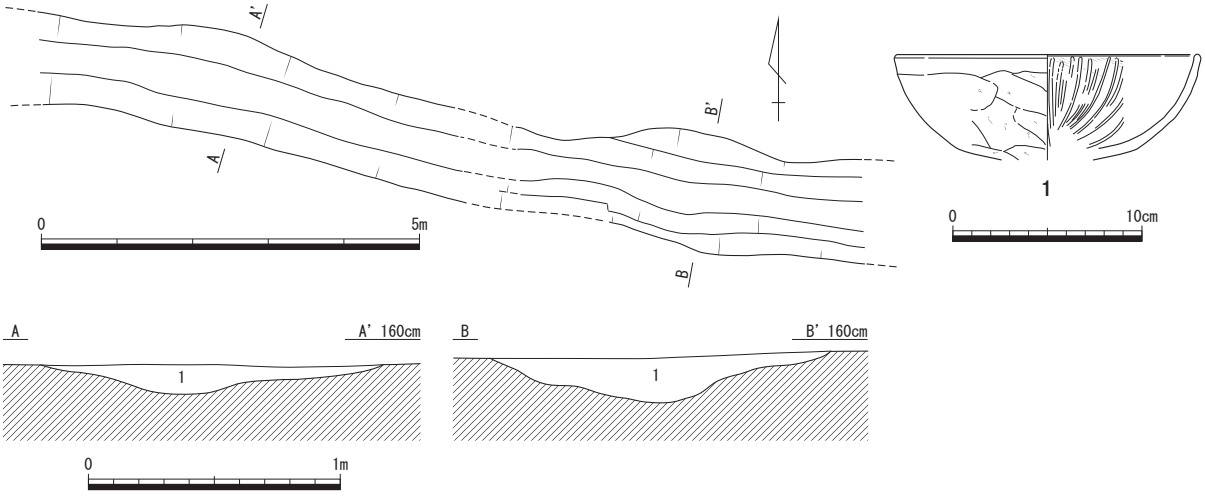
1　現代造成土（プラスチック類含む）
2　真砂土〈明治期造成土か〉
3　暗灰黄色微砂　2.5Y5/2〈洪水砂か〉
4　灰色シルト　5Y6/1〈明治期水田層〉
5　にぶい黄色シルト～微砂　2.5Y6/4（鉄分・マンガン沈着）〈近世水田層〉
6　にぶい黄色シルト～微砂　2.5Y6/3（鉄分・マンガン沈着）〈近世水田層〉
7　黄灰色～灰黄色シルト　2.5Y6/1～6/2
8　黄灰色シルト～微砂　2.5Y5/1～6/1（鉄分・マンガン沈着）
9　暗灰黄色シルト～微砂　2.5Y5/2（鉄分・マンガン沈着）
10　灰黄色微砂　2.5Y6/2（鉄分沈着）
11　黄灰色シルト　2.5Y5/1（鉄分沈着）〈中世〉
12　黒褐色シルト　2.5Y3/1（鉄分沈着）〈古墳後期〉
13　灰色粘土～シルト　5Y4/1〈溝１〉
14　灰色シルト　7.5Y5/1（鉄分沈着、場所によって黄色を帯びる）
15　灰色粘土～シルト　N4/（植物遺体を含み黒色を帯びる）
16　オリーブ灰色粘土～シルト　2.5GY5/1
17　オリーブ灰色微砂混じりシルト　2.5GY5/1
18　オリーブ灰色微砂混じりシルト　2.5GY6/1
19　灰色微砂混じりシルト　7.5Y5/1
20　灰色微砂混じりシルト　5Y5/1
21　灰色微砂混じりシルト　7.5Y4/1（植物遺体多く含み黒色を帯びる）
22　灰色微砂混じりシルト　10Y5/1（植物遺体含む）
23　灰色微砂混じりシルト　7.5Y4/1（植物遺体多く含み黒色を帯びる）

第６図　調査区西壁土層断面（縦1/100・横1/250）

第２節　遺構・遺物

溝１（第５・７図、図版２）

１区のほぼ中央を東西に走る溝で、第14層を基盤としている。検出総延長は約11ｍで、東西の壁面でも断面を確認した。検出面での最大幅は155㎝、断面形は皿状を呈し、深さは最大20㎝である。底面の標高は、西端が海抜約1.36ｍ、東端が同1.33ｍで、わずかながら東側に傾斜しているようである。底面から出土した土師器の鉢１から判断して、この溝の時期は古墳時代前期と考えられ、検出面の海抜高はＴ30で検出した南北方向の溝に近い。（岡本）



第７図　溝１（1/100・1/30）・出土遺物（1/4）

焼夷弾着弾痕（第５図、写真１・２、図版４）

２区の南端付近で、昭和20年（1945）６月29日の岡山空襲に伴う焼夷弾の着弾痕を確認した。海抜約1.85ｍの面を検出中に土壌の変色に気づき、精査したところ金属片が出土し始めたため、焼夷弾の可能性を考えて、安全を確認した上で記録作業を行った。結果、着弾痕は南から北に向かって潜り込む逆円錐形の穴で、検出面での規模は60㎝×50㎝程度、底の海抜高は約0.9ｍであった。内部には油脂や砂礫を含む汚れた土が詰まっており、多数の部品が出土した。部品の出土状況には、頭部が尾翼よりも浅い位置から出土するなど不可解な点もあるが、細長い逆円錐状の穴は廃棄処分用に掘られたにしては不自然なため、本地点に着弾、爆発したものと考えている。出土した焼夷弾の種類は「M47Ａ

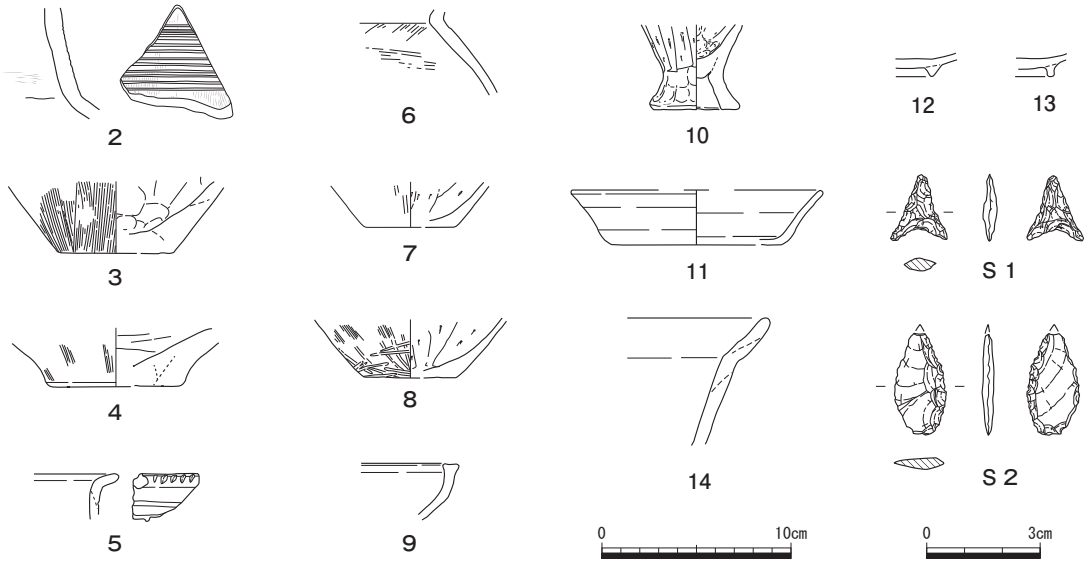
写真１　焼夷弾着弾痕の検出状況（南西から）

写真２　焼夷弾着弾痕の断面（東から）

２焼夷弾」で、出土した部位は、先端の信管・頭部・胴部・尾部・点火装置外管・尾翼、及びその他の小破片である。なお、信管は穴の周囲の粘質土層内に遊離した状態で出土したことから、爆発の圧力で粘質土層に押し込まれたと考えている。（岡本）

その他の遺物（第８図、図版４）

弥生時代から近代に至る各時代の堆積層から、少量の遺物が出土している。２～10は、弥生時代後期低湿地の堆積層から出土した弥生土器で、弥生前期から後期までのものが混在している。２は後期の長頸壺、５は前期の甕口縁部、６は中期の甕肩部、９は中期の高杯である。10は後期の製塩土器の脚部であり、１区の第15層ないし19層から出土した。11～14は中世以降の堆積層からの出土である。11は小片であるが古代の杯であろう。12・13は中世の土師器椀の底部、14は土鍋である。石鏃Ｓ１・２は弥生後期の低湿地層から出土した。（岡本）



第８図　その他の遺物（1/4・1/2）

第３節　小結

今回の調査では、遺構・遺物は僅少であったが、現在は武道館の敷地となっている津島遺跡北西端の状況について一定の知見を得ることができた。

本地点は弥生時代後期までは低湿地ないし河道のような環境にあり、弥生時代前期の水田層などは確認できない。微高地が形成され、人の活動が可能となるのは古墳時代前期である。当該時期の遺構は東西方向の溝１条のみであるが、北に隣接するＴ30では平成11年度に南北溝１条を検出しており、当時は時期不明としていたが、 同一面・同一時期に属する可能性が高い。しかし遺構密度は希薄であり、居住地としての利用はなされなかったと考えられる。

古代には、現在の岡山県総合グラウンドの大部分は備前国御野郡伊福郷に含まれ、北側に隣接する津島郷との郷境には溝が掘削されていた。この溝は、グラウンド内では陸上競技場調査区、第一次確認調査のＴ11・13、武道館建設地調査区で確認されており、ほぼ正確に東西を指向する。陸上競技場調査区での規模は幅約10ｍ、深さ約1.5ｍで、中世までは溝として機能していたと考えられる。本地点では検出できなかったが、本来は中央の貯水槽の位置に存在したことは確実である。（岡本）

表２　遺物観察表

土器

掲載番号	地区	遺構名	種別	器種	計測値（cm）			色調（外面）	胎土	残存状態	備考
					口径	底径	器高				
1	１区	溝１	土師	鉢	15.8	－	(5.6)	にぶい黄橙（10YR7/3）	1㎜以下の砂粒	体部2/3残	
2	１区	弥生後期低湿地層	弥生	壺	－	－	(6.0)	にぶい黄橙（10YR7/4）	1.5㎜以下の砂粒	頸部破片	
3	１区	弥生後期低湿地層	弥生	壺	－	(5.8)	(3.8)	にぶい黄橙（10YR7/2）	2㎜以下の砂粒	底部1/4残	
4	１区	弥生後期低湿地層	弥生	壺	－	(6.8)	(3.1)	にぶい橙（7.5YR7/3）	2㎜以下の砂粒	底部1/4残	
5	１区	弥生後期低湿地層	弥生	甕	－	－	(2.2)	橙（2.5Y6/6）	2㎜以下の砂粒	口縁部破片	
6	１区	弥生後期低湿地層	弥生	甕	－	－	(4.5)	にぶい黄橙（10YR7/2）	5.5㎜以下の砂粒	肩部破片	外面煤付着
7	１区	弥生後期低湿地層	弥生	甕	－	(4.6)	(2.4)	黒（2.5Y2/1）	1㎜以下の砂粒	底部1/4残	
8	１区	弥生後期低湿地層	弥生	甕	－	(4.6)	(3.1)	にぶい黄褐（10YR5/3）	2㎜以下の砂粒	底部1/4残	
9	１区	弥生後期低湿地層	弥生	高杯	－	－	(3.0)	にぶい黄橙（10YR7/2）	2㎜以下の砂粒	口縁部破片	
10	１区	弥生後期低湿地層	弥生	製塩	－	4.4	(4.5)	灰白（10YR8/2）	4㎜以下の砂粒	底部1/1残	
11	１区	中近世包含層	土師	杯	(13.2)	(9.0)	2.9	灰白（10YR8/2）	1㎜以下の砂粒	底部1/4残	
12	１区	中近世包含層	土師	椀	－	－	(1.2)	浅黄橙（10YR8/3）	2㎜以下の砂粒	底部破片	早島式土器
13	１区	中近世包含層	土師	椀	－	－	(1.2)	浅黄橙（10YR8/4）	4㎜以下の砂粒	底部破片	早島式土器
14	１区	中近世包含層	瓦質	鍋	－	－	(6.7)	灰黄褐（10YR4/2）	2㎜以下の砂粒	口縁部破片	

石器

掲載番号	地区名	遺構名	器種	計測値（cm）			重量（g）	材質	時期	備考
				長さ	幅	厚さ				
Ｓ１	１区	弥生後期包含層	石鏃	17.4	15.0	3.7	0.51	サヌカイト	弥生	完形
Ｓ２	２区	弥生後期包含層	石鏃	(27.0)	13.8	2.7	1.06	サヌカイト	弥生	ほぼ完形

報告書抄録

ふりがな	つしまいせき
書名	津島遺跡
副書名	岡山武道館練習道場建替工事に伴う発掘調査
シリーズ名	岡山県古代吉備文化財センター年報
シリーズ番号	１
編著者名	岡本泰典・柴田英樹
編集機関	岡山県古代吉備文化財センター
所在地	〒701-0136　岡山市北区西花尻1325－３ URL　https://www.pref.okayama.jp/site/kodai/
発行機関	岡山県古代吉備文化財センター
所在地	〒701-0136　岡山市北区西花尻1325－３
発行年月日	2022年９月30日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地		コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積（㎡）	発掘原因
			市町村	遺跡番号					
津島遺跡（つしまいせき）	岡山県岡山市北区いずみ町２－12（おかやまけんおかやましきたくいずみちょう２－12）		33101	332011477	34°40′51″	133°54′48″	20200824～20201110	490	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
津島遺跡	集落	古墳時代	溝１条		土師器				

要約	津島遺跡は岡山平野を流れる旭川西岸の沖積地に立地する、弥生時代から近代までの複合遺跡である。今回の調査地点は遺跡の北西端に位置し、遺跡の縁辺部と考えられてきた。調査の結果、検出した遺構は古墳時代前期の溝１条のみであり、弥生時代から近世に至る出土遺物も極めて少量であった。また、弥生時代後期以前には河道ないし低湿地の環境下にあったことも確認された。以上の結果から、本地点は従来の想定通り遺跡の縁辺部にあたり、遺構は希薄であることが改めて裏付けられた。本地点周辺は弥生時代後期までは低湿地の環境にあり、土砂の堆積に伴って古墳時代前期頃には地形が安定するものの、集落などは営まれなかった可能性が高い。なお本地点では、周辺における過去の調査成果から、東西方向の条里溝の存在も想定されていたが今回の調査では検出されず、工作物の設置に伴い消滅したものと判断した。

１　岡山県総合グラウンド全景（北東上空から）平成15年撮影・岡山県公聴広報課提供

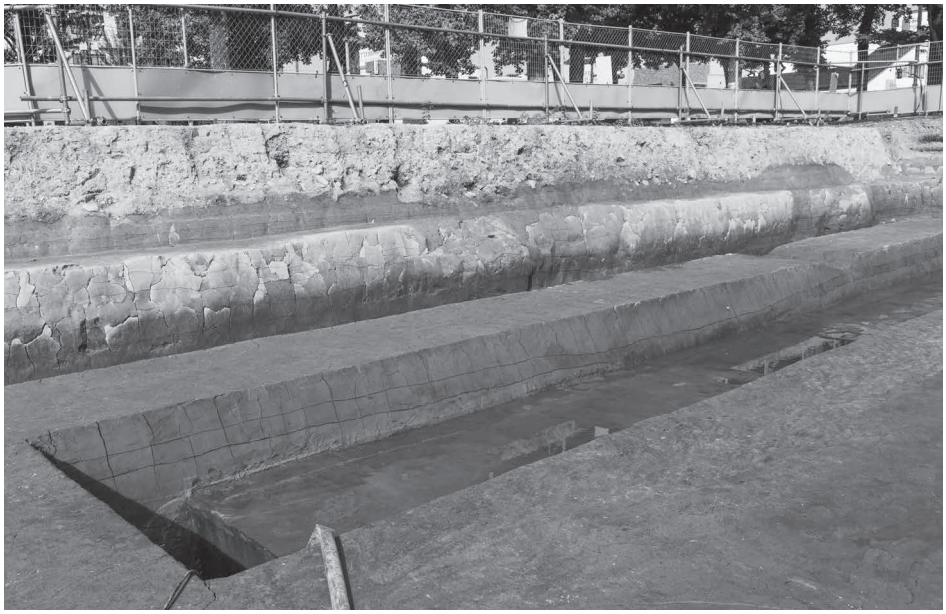
２　１区全景（南から）

図版２

１　１区全景
（南西から）

２　溝１（西から）

３　溝１断面
（西から）



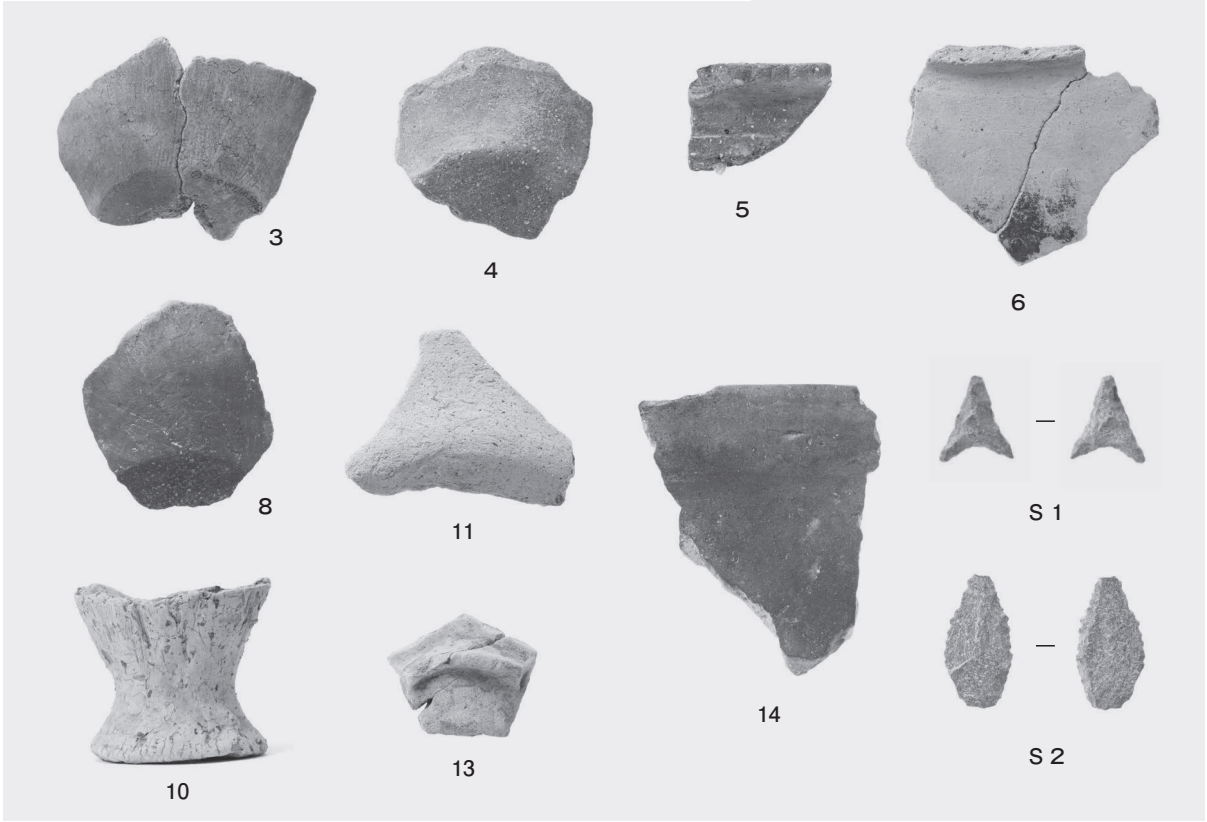
１　１区西壁土層
断面（南東から）

２　２区全景
（南西から）

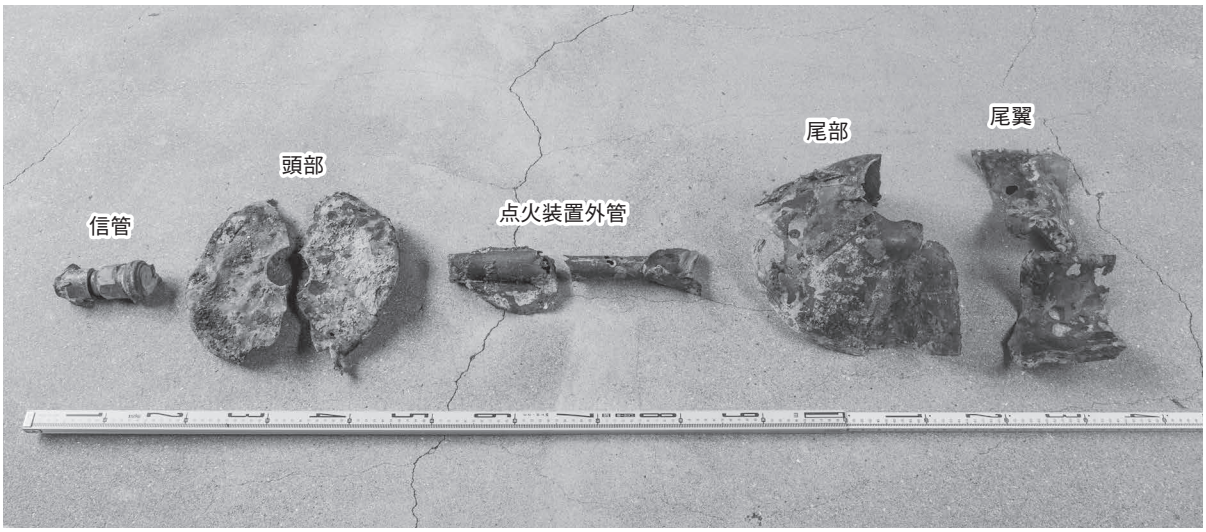
３　２区西壁土層
断面(北東から）

図版４

1　溝１出土遺物



2　その他の出土遺物



3　焼夷弾

岡山県古代吉備文化財センター年報１
＜ 令和３年度 ＞

令和４年９月30日　印刷
令和４年９月30日　刊行

発行　岡山県古代吉備文化財センター
岡山県岡山市北区西花尻1325-3
TEL 086-293-3211

印刷　サンコー印刷株式会社
岡山県総社市駅南1-1-5